あなたが幸せなら
わたしが幸せ

げんじあきら

目次

○２０１７年夏都議会議員選挙

○研究界や学問界

○日本社会の序列

○集団には愛がないから
あなたが幸せならば私が幸せ

○それは愛のことだ

○人が動く押しボタン

○あなたの絶対的な味方
愛を大きくするには

〇愛を大きくする

〇よろいを少なくする

〇愛が20よろいが80

〇それでも愛を大きくしないといけない

愛が薄らいできている

○２０１６年都知事問題

２０１６年の半ばにかかっているのだが、相変わらず事件が多い。毎日テレビではやることに事欠かない。
今日のテレビを占拠している事件は、都知事の政治資金問題。政治資金から家族で温泉を楽しんだりしたお金を計上しているのではないか。あるいは、海外視察の大名旅行のような出来事であったり、湯河原の別荘に毎週にちかく公用車で出かけていたりである。
前回の都知事は５０００万円を選挙資金としていただいたのだろうが、その処理の問題で辞任した。
歴代の東京都知事は、なにかしら大都市のボスらしく振舞わないとみっともないという感覚であるかのようだ。
都民感情と大きく離れているのだが、都民もそう思っていると勘違いをしているようだ。
個人的な意見なのだが、あの立派過ぎる都庁舎をなぜつくったのだろうか。大日本の大東京にふさわしい庁舎を目指さなければあんなものはできない。大名旅行のような海外視察習慣も同じである。香港のトップの方に失礼なのだが、それより上回らないとまずいでしょ？と平気で言ってしまうほどのおかしな感覚なのだ。
あんな立派な庁舎に住んだら、誰でもがこうなってしまうだろう。都知事だけをとやかく言うことはおかしい。一緒になって立派な庁舎で大きな予算をふんだんに使うことを考えてしまう公務に携わる人の感覚もおかしい。
これを何度も選挙の度に同じことをやってしまう都民も、どう考えてもおかしい。
東京都民は他の県民に較べて豊かに振舞うことが当然と思っているのだろう。
こんなおかしな都庁の状況を何もしないのだ。
私のおふくろの田舎は大分の半島の端にあって、源平の合戦の時に平家の落

人になった。そこから９００年平穏に暮したのだ。静かに暮した。江戸も明治も大正も昭和も静かに暮した。おかしくなったのは、偏差値が導入された１９７０年代からである。
日本は、高学歴都会集中国民グレードアップ総豊かの流れに入ったのだ。
大分の半島の先にいたら大学に行くほどの収入を得られない。それから45年、小学校も中学校もあったのに、もう女性だけが数人残っているだけだ。廃村になりそうなのだ。
偏差値などほっておけばよかった。大学など行かなくてもよかった。高学歴都会集中国民グレードアップ総豊かの流れなど無視すればよかった。
私もおふくろの田舎で４歳まで下関から疎開していた。
かすかな記憶もある。
すごい残念なのだ。残念というより悔しい。
私は今は東京にいる。
自分も高学歴都会集中国民グレードアップ総豊かの流れに流れた１人なのだ。
今になってこんな文章を書いている自分が悔しい。
下関だって、大分の半島の先端のようになってきているのだ。
人口減少である。
２０１６年の東京都の知事のあまりにも公私混同が個人的だけでなく組織全体でなされているのを観ていて、一方でおふくろの大分の田舎が廃村になることを、これも観ているのだ。
何かが間違ったのだ。
偏差値の導入と高学歴都会集中国民グレードアップ総豊かの流れができてしまったことが間違いだった。
これでは大学がある街にしか人は住まなくなる。
事実そうなっている。
日本の多くの町や村では、すでにして、イノシシやサルや鹿や熊の被害に苦しむようになってきている。
みんな大学のある街に出てしまったのだ。
もう日本の人口減少を止めることなどできない。
私のおふくろは一昨年92歳で亡くなった。

時代には逆らえないと言った。
多くの日本の人々はこう言う。
すごく善良なのだ。
このようなすごく善良な日本の人々に任せていればよかった。
大分の平家の落人にまで日本の為政者的流れが影響したのは、先の世界大戦である。全国民が戦うという流れなのだ。
多分、なぜ戦うのかよくわからない人がほとんどだっただろう。
おふくろが言う、時代には逆らえないである。
日本の人々は善良なのだ。
先の世界大戦への参戦は、単に、人が人を襲うエクスタシーの発揮だったと私は考えている。これはエクスタシーだから、武器が整えば、人は人を襲いたくなる。エクスタシーだからいいとかワルイではない。
日本社会は、明治以降、日清日露第一次第二次の４度の他国との戦いを行った。
なぜだとか考えても答えなどない。
人には、誰でもに、人が人を襲うエクスタシーが備わっている。
いいとかワルイではない。
大分の半島の先端の村まで人が人を襲うエクスタシーが影響を及ぼしたのは、太平洋戦争だった。
ほとんどの若者が、大分の平家の落人の村から戦地に向かって帰って来なかった。
それでも時代には逆らえないである。
どう考えても日本のみんなは善良なのだ。言い方を変えれば、追従のエクスタシーに犯されている。
追従のエクスタシーは、いいとかワルイではない。
エクスタシーである。
強烈な権力者がいたら従ってしまうエクスタシーだ。
日本のお金をゼンブ使って日本の人々をゼンブ戦う人にして、そうまでして人が人を襲うエクスタシーを発揮したかったのか。時の権力者はもういないのだが、２度と、同じことを繰り返してはいけないのだろう。
しかし、大分の半島の先端の平家の落人の村は消滅しなかった。これくらい

の苦難は何度も乗り越えてきたのだ。
村の人口は一時的には減ったのだが、盛り返した。
そして、偏差値が導入される１９７０年代である。
１９４５年以降の日本は、権力構造が消滅した。
あんたが権力者だよ。
日本のみんなは、いきなり言われた。
１９７０年までがもっとも日本にとって好ましい状態だった。浜松のオートバイのおじさんや大阪の電気のおじさんなど、田舎風のおじさんが自由に活動することを誰も止める人はいなかった。いまでもアメリカではサンフランシスコの田舎風のおじさんが現れてスマホを創ったりする。自由な気風がある。少しの解放感がある。
日本も１９７０年代の中ごろまでは、そうだった。
人は少しの解放感さえあれば自由に物事を考えて発想する生き物なのだ。
しかし、これがながく続かない。
必ず権力者の嫉妬を生んでしまう。
１９７０年の偏差値が導入された時でも、日本には権力者はいなかった。日本のみんなが権力者だった。
しかし、これは事実上だが、日本の中に権力者はいないが、権力者ぽい人はたくさんいるのだ。
１９７０年代の偏差値の導入を期に、日本の中の権力者ぽい人たちは、頭をもたげてきた。
そもそも日本には、水戸黄門がながくテレビ放送で慕われたようなところがある。
日本の中のワルイ権力者をよい権力者が退治してくれることを期待する風土である。
いいとかワルイではなくて、権力構造が残っている。
偏差値の導入は、意図したこととは違ったかもしれないが、一旦１９４５年に壊れた日本の権力構造の再生の武器になった。
おかしなことなのだが、勉学ができることが人間として立派であるというまやかしを押し通してしまった。
江戸の時代では、勉学ができるかどうかではなくて、血筋だった。血筋に較

べたら勉学ができることは好ましいのだが、勉学ができることはスキルだから、立派な人間とは基本的に異なることである。
冒頭の東京都の知事の話しに戻ると、２０１６年夏の現在にマスコミや都民に責められているが、偏差値は最高値の人で日本の権力者っぽい人になる学業成績である大学を出た。大学の先生の後に政治家になった。
どこから見てもよろいが立派である。
しかし、２０１６年の夏には、やっと東京都の人たちは、よろいの立派さが人間として立派なわけではないことに、気がついたかのようである。
しかし、多分、また新しい人が現れると、よろいの立派な人が人間的にも立派と勘違いするだろう。まだ３００年くらいかかりそうだ。血筋の時間がながかった。学業の時間も長いだろう。
そして裏切られて悔しくなるのだ。

○主権者を見下ろすことがよろいになる

昨日、都知事の政治資金使用問題について第三者に自分で調査を依頼していた結果が報告された。
不適切な部分は多々あるが法令違反ではない。
こんな結論を報告されていた。
今日から都議会の代表質問で都知事が責められることになる。
現在のところ、こんな都知事とは思わなかったというのが都民だけではなくて日本の生活者全般の思っていることだろう。
公私混同が激しい人なのだ。
個人の問題なのか組織の風土の問題なのか、両方の問題なのかが問われる。
私は、組織の風土が個人を劣化させたと思う。
そう信じたい。
個人の問題だとしたら、社会の悪を叩くような発言を繰り返していた個人と現在の姿が、あまりにも乖離しているのだ。
以前に日本社会に受け入れられていたパーソナリティーは、すべてがよろいだったのだろうか。ハナから公私混同の激しい人だったのだろうか。
私には、あんな立派な高層庁舎に主権者の都民を見下ろして座っている人た

ちの風土だと思ってしまう。
大阪城築城と勘違いをしている。
権力の象徴にしか見えない。
この権力者ぽい風土に染まってしまったら、どんな信念のある人が選挙で選ばれても同じことになってしまう。
現在までの都知事のまずかったところは、都庁舎のよろいに何も挑戦しなかったことだ。
大名行列のような海外出張も問題にされているのだが、こんなすごい海外出張が組織の中でまかりとおってしまうことが驚きである。
あの高層都庁舎にふさわしい主の海外出張らしくなっている。
自分をトップリーダーだと言ってしまうよろいの感覚は、もともと個人にあったものなのか、あの高層都庁舎の風土のものなのかを疑う。
私は、あの高層都庁舎の風土なのだと思う。
あの大名行列を止める人が、高層都庁舎にはいないのだ。
止めるどころか膨らませているのではないかと疑ってしまう。
あの高層都庁舎は１９９１年である。
バブルの終焉の時だ。
あれができて、そこで都民の生活のお世話をさせていただく感覚ではない。
都の職員は、都知事も含めて、都民の下部なのだ。
２０１６年には、多分、都民の憧れの職場だろう。
多分、高額の年収だろう。もっとも安定している。
もう少ししたら、東京都も人口減少に陥る。
私の育った下関などは、人口が増える策など見つからないかのようだ。
東京都だって人口が減少する。
東京の人口が目に見えて減りはじめてからのあの高層都庁舎の違和感はどうなるのだろう。
２０１６年だって、しばらく続く保育の待機児童問題でモメている。
いずれ人口減少に陥るから保育園もガラガラになってしまうのだが、しばらくは東京に人が集まる。
保育の待機児童を解消する保育園とあの高層都庁舎には、すごい大きな違和感がある。

もう１９９１年から新宿に立っているので慣れてしまっている。
これは誰かがやらないといけないことなのだ。
会社でも同じである。
権威の象徴のような本社ビルを建設すると会社は危なくなる。固定費が大幅に増えるからだ。
そしてわけのわからないプライドのようなものが社員に蔓延する。よろいなのだ。
あの高層都庁舎は１９９１年である。
もう25年もプライドのような余計なものがフツウだったらできている。
フツウの会社だったらすべてそうなってしまう。
高層都庁舎がどうだかわからなかった。
しかし、今回の都知事の諸々の出来事で、高層都庁舎の風土の陰りが見えてきた。
都知事の公用車の使い方で都の幹部の公用車の使い方を類推できる、
東京都は、東京オリンピックのメーンスタジアム問題でもよく似た話しになった。
ローマのコロッセオのようなものをつくりたがることがわかった。
東京独特の風土である。
人間の歴史に従えば、東京は繁栄都市国家の滅びの雰囲気と同じである。
豊かの頂点を経験したかどうかだが、これは１９９０年に経験している。そこから25年、豊かを維持するエクスタシーに陥っている。
もう成長はしない。
豊かを維持したいからあかちゃんを産まない。
人口が減少する。
意識は豊かにあるから豊かの象徴のような経済的には再生産に寄与しない建造物を建設する。
コロッセオのような建造物だ。
東京都の高層都庁舎などは典型である。東京オリンピックをやりたがってメーンスタジアムをつくりたがる。
ローマはコロッセオができて遠くない時期に滅んでしまった。
ローマ都市国家だけではない。

どこの繁栄した都市国家も、同じシナリオで滅んでしまうのだ。
東京も同じである。
東京は大学が収集しているせいで、地方から人が集まってしまう。ローマ都市国家のように急速に人口減少になるわけではないが、ある時期から一気に東京都の人口は減少するだろう。
都市国家ローマが滅んだように、東京も滅んでしまう。
このまま何もしなかったら過去の人間のやってきた歴史に従うことになって、東京は滅んでしまう。
今回の都知事の諸々の出来事で、わからないことは目に見えるようになってきている。
このまま放置していたらまずい。
多くの都民から辞めてほしいと言われている問題の都知事の失敗は、こんなよろいにまみれた高層都庁舎のよろいに挑戦しなかったことだ。
あんな大名旅行を庁舎内から何も意見も出なかったことは残念である。
もしかしたら、遠くない時期に残念だか、都知事は交代するかもしれない。
秋になるかもしれない。
そして、東京が滅んでいる流れを止めてくれるような新しい都知事が誕生することが望ましい。
あの、自分たちが下部であるはずの東京都民を見下ろすかのような高層都庁舎を売却することだ。
どうせ東京の人口も少なくなる、あんなものがあったら、職員を減らすこともできない。
何よりも職員のプライドがよろいになっているのだが、それを壊さないといけない。
あの都知事の公用車の使い方や大名旅行のような出張をなんでもないかのように進めてしまう風土を壊さないといけない。
壊すことに挑戦しないと自分がよろいに染まって壊される。
前回の都知事も社会的には、正義派で清廉で戦うイメージだった。今回の都知事もパーソナリティーは異なるが、正義派で清廉潔白で戦うイメージであったことは事実である。
あの高層都庁舎のよろいにかなり汚染されたと思うのだ。確かに２人とも個

人的にまずいのだが、それでも、ここまでワルクはならない。
もし新しい都知事が誕生するのだったら、あの高層都庁舎のよろいと戦わないと、喰うか喰われるかになってしまう。
今回、それがはっきりしている。
２代の都知事は喰われたのだ。
権力の座に着いたかのような勘違いをしたこともまずかった。

○よろいの厚い人に見える
私はトップリーダですよ？
飛行機のファーストクラスのことで言ったのか最高級の部屋のことで言ったのかわからない。
自分でこう言い放ってしまう人であったことに驚いた。
私も驚いたが、東京都民も全国の生活者も驚いた。
私はトップリーダーになるべきスキルを持っていると言いたいのだろう。
当然だと。
あなたを選んだのは私たちなんだけど。
こんな人だとは思わなかった。
自分はトップリーダーでわたしたちはなんなの？
自分はファーストクラスだけどわたしたちはエコノミー？
わたしたちは知らないであなたを選んだだけだからゴメンなさいする。
あなたを推薦してくれた人たちも少しは信用できなくなった。
今日は20日である。明日都知事は退職する。
残念だが、私の言う典型的なよろいの人だった。
よろいの人になったのだ。
以前の著書や発言をテレビで知らされて、あまりの違いに驚いている人が多いのだろうが、そういうことではない。そのときはそういう考えだったのだ。
本心かどうかではない。そういうことが答えだったのだ。
偏差値の人である。どういう答えをすればＮｏ１になるか知っている。
本心ではないかもしれないが、答えが抜群だったのだ。さすがは偏差値Ｎｏ

１である。
そして２０１６年の今がまるで異なった行動になっている。
それはそれで偏差値Ｎｏ１の答えなのだ。
トップリーダーとしてどうあるべきかの答えなのだ。
ずっと一貫してその答えを述べている。
トップリーダーとしてビジネスホテルに泊まったら恥ずかしいでしょ？
東京都民が恥ずかしいでしょ？
こう言っている。
トップリーダーとしてふさわしい行動をしていたのだ。
政治資金流用についても、多分、これくらいはフツウにみなさんやっていることなのだろう。
しかし残念だった。
偏差値Ｎｏ１の人は、答えを間違ってしまった。
東京都民は、トップリーダとしてふさわしいかどうかを都知事に求めていたのではなくて、自分に近いかどうかを求めていたのだ。
偏差値Ｎｏ１の人も、試験問題を読み間違えた。
あんな高層都庁舎の主になったら、それにふさわしく行動してくれとみんなに言われるに決まっている。
次第に試験問題の読みが狂ってくる。
東京都民と離れていってしまったのだ。
あんたなんか知らない。
選挙民である。
こう言われてしまったらどうにもならない。
保育園落ちた！日本死ねに反応した方が良かった。
偏差値ＮＯ１の人は試験問題を読み間違えた。
そして、本心はどうなのだろうか。
ホントは、この人はそういう人なのだろうか。
多分、誰もわからないかもしれない。
２０１６年に本心が出てきたと思っている人が多いのだろうが、そうではなくて、偏差値Ｎｏ１の人が試験問題を読み間違えたのだ。
おかしな答えをしてしまった。

偏差値の高い人は、こういう生き方しかできないだろう。
試験問題を設定して偏差値Ｎｏ１の答えをすることだ。
日本の経済発展のための電力需要と電力の生産という試験問題をつくって、自ら、原発という答えを導くことが、偏差値Ｎｏ１の人たちの思考である。
日本の人口が減るのに日本では経済発展はしないのだ。
試験問題の前提が誤っているのだが、とにかく、偏差値Ｎｏ１の人たちの思考はこういう思考である。
国家としてのスエーデンと同等の経済規模のある東京都の知事である。あの高層都庁舎の主である。
トップリーダと自分で言ってしまうことに、自分では何も違和感はなかっただろう。
もしかしたら、トップリーダーにふさわしくないかもしれないと言われる不安を持っていたかもしれない。
本心はよくわからないままになってしまうだろう。
偏差値Ｎｏ１の人たちに共通しているのだが、ほとんどの行動がよろいの行動であるために、愛の大きさが測れないことだ。
明日辞める都知事の若いときの言動が、今回のことで、愛ではなかったことを知ってしまう。
庶民の味方のような言動だったのだが、それは試験問題を、庶民の味方にしたときの答えだった。
今回は東京のトップリーダとしてふさわしいかどうかが試験問題だった。
そして試験問題を読み間違えてしまった。
やはり、試験問題は庶民の味方で良かったのだ。
残念だろう。
今は気がついているのだろうか。
こころは、愛の器であってよろいの器でもある。
こころは愛とよろいがシェアーしている。
フツウの人は愛が20によろいが80である。
偏差値の高い人に愛が20以上ある人は少ない。
最適な答えを求めてしまうからだ。
愛を経由することなどない。

愛は、あなたが幸せだったら私が幸せだという言動をすることだ。
愛の大きな都知事であったら、あなたたちのために節約して保育園をつくる足しにしてくれと言うだろう。
１回海外出張をやめれば保育園ができる。
海外出張に行くのは権利なのだろう。
どこからどう考えても、愛がフツウよりも多いことなど考えられない。
愛は20かそれ以下である。
とても、あなたが幸せだったら私が幸せだとは言いそうもない。
次の都知事には聞いてみるとよい。
あなたは自分をさておいても都民が幸せになることを望みますか？
もしハイと言ったとしても信じ続けたらいけない。
あの高層都庁舎に入ったら、都民はさておいても都知事にふさわしいことをする人に変わってしまうだろうから。
あの高層都庁舎は、人をよろいに仕向ける。
あんなものを建築することを許してしまった東京都民がワルイのだ。
せめて、あれを売ってしまいたいと言って都知事に立候補する人がいたらみんなで応援をして欲しい。
いまではそれしかできない。

イギリスはＥＵを離脱するのか

○イギリスファースト

明々後日、イギリスのＥＵ離脱の国民投票がある。
もしかしたらイギリスはＥＵを離脱するかもしれない。民意を２分している。離脱反対派の女性の国会議員が襲われて死亡した。イギリスファーストを主張する人にだろう。どうしてＮｏ１がふさわしいのに、ダメな国を一緒になって援助しなければならないのだろう。しごく妥当な考えでもある。
あなたが幸せだったら私が幸せだという感覚がなかったら、ごくフツウの考えだろう。
イギリスファーストの思考は、フランスとの１００年戦争を避けることができなかったし、世界中にイギリスの縄張りを張り巡らせた。
これが愛ではなかったことは、ことごとく独立戦争を起こされていることだ。
香港などは、１９７７年である。
戦争にならずに返還できたことはグッドだった。
アメリカ独立が１７７６年だ。
イギリスが世界で１番だと考える人が多くいても当然なのだろう。
しかし、イギリスは、典型的な豊かを維持するエクスタシーに突入しており、ほっておいたら、世界１豊かだったからこの栄光を維持しようとする。
当然あかちゃんは生まなくなる。あかちゃんがいたら自分の豊かを維持できないからだ。
人口が減少しないのは、移民政策によるものだ。
その移民が気に入らないのだ。
どういうつもりなのか。
移民がいなかったら人口減少に陥る。
多くの人は、イギリスがＥＵから離脱することはないと思っていた。
たかをくくっていた。
ところが、僅差でイギリスはＥＵから離脱してしまった。

まだ離脱通知はしていないらしいので半月過ぎたが、前のままだろう。
多分、イギリスのみんなは失敗したと思うだろう。
今に思う。
イギリスファーストなんか思ったらロクなことはない。
ロクなことはないのだが、昔からイギリス人はイギリスファーストだったら、チャンスがあったらまたイギリスファーストにしたいだろう。
しかし、ＥＵから離脱する理由が良くない。
ＥＵを拡大させたために東ヨーロッパから大挙してイギリスにやってきたのだ。
ＥＵのためにイギリスの豊かさを分けることはない。
こう思ったらよくない。よくないのだが、よくないと思うのはブッダくらいのもんかもしれない。
他の方法を考えればいいのにＥＵを離脱することはないだろう。
このままでは、またイギリスとフランスは戦争をしてしまう。
イギリスとドイツとフランスはみんな自国ファーストなのだ。
だから戦いが絶えない。
このまま３年経過したら、イギリスからＥＵへの輸出品に高い関税をかけられるために、日本企業も中国企業もイギリスから撤退をして、イギリスの経済はジリ貧になってしまう。
豊かを分けたくないとＥＵを離脱したのに、今度は自分の行き場がなくなってしまう。
なんといっても、産業革命の時のすごさをだれも知らないのだ。
イギリスの人は、資本を持っていて資本で暮らすもんだと思っていることがどうにもならない。
経済は再生産と消費である。
資本があっても簡単には暮せない。
有効に使える日本や中国や韓国や台湾の会社をイギリスから出してしまったら、いくら資本があっても何もできなくなる。
イギリスは、もう自分だけでは再生産はできない。
消費だけができるだけだ。
このままではイギリスが衰退する。

ＥＵから離脱したらこうなることは目に見えていた。
それにもかかわらず、イギリスファーストを選択してしまった。
イギリスから、アメリカや日本や中国や韓国や台湾の会社を撤退させない術はあるのだろうか。
みんなイギリスを拠点にＥＵ全体で事業をしたいのだ。そんなことはハナからわかっているのに。
豊かを維持するエクスタシーはどうにもならない。
残念に思うのは、世界でもっとも豊かだったイギリスが、世界のみんなに対して寛容になれなかったことだ。あなたが幸せだったらわたしが幸せだになれなかったことだ。
まだこれから先のことはわからないが、少なくとも、ＥＵから離脱するということは、そういうことだ。イギリスのみんなの愛が少ないことだ。
イギリスの人をワルク言うつもりはない。ただ残念である。
イギリスからあなたが幸せだったら私が幸せだという言葉が遠くなるのが残念である。
ただ、まだ拮抗している状態なので諦めてはいけないだろう。
今後新しい政府がＥＵ脱退交渉をするのだろうが、更に見えずらいことが見えてくるだろう。

○アメリカファースト
アメリカ大統領選挙の共和党大会が今日終ったようだ。
メキシコとの国境に壁を建設することも綱領に加えているらしい。
万里の長城のようになる。
どれだけ自分達がすごいと思っているのだろう。黙って入ってくるなである。
日本などは周囲が海なので、自然の万里の長城があるようなものだから、アメリカの共和党の大統領候補と同じ考えなのだろう。
イギリスがＥＵから離脱した理由と同じではある。
どんだけ自分が立派というか豊かだと思っているのだろうか。
もしホントに壁ができたら、メキシコの人たちは、いつかサンキューと言っ

てしまえるようにガンバルとよい。
豊かさは人口である。人口が多いと、いつかは社会全体が豊かになる。
経済が最生産と消費だからだ。
人口が多いと消費が盛んになる。
メキシコの人口は、現在のままなら、アメリカの人口を追い越すことはない。アメリカが移民政策をとっているからだ。
もしメキシコとの国境に壁を建設するようなことになったら、当然移民数も制限するのだろうから、アメリカの人口増加にブレーキがかかることになる。
それでも３億人を大きく越えているアメリカの人口をメキシコが越えるのはシンドイことだ。
アメリカ次第だろう。
アメリカがもし移民をゼロにしたら、一気にアメリカは豊かを維持するエクスタシーに陥って人口減少に陥る。中国や日本の15年後くらいのように、それは一気にやってくる。
１００年後くらいには、メキシコがアメリカと肩を並べることもあり得ないわけではない。豊かさのことだ。
そしたら、アメリカからメキシコへ黙って入り込む人も現れてくる。
メキシコはアメリカがつくった万里の長城のような壁をそのまま使わせてもらえばよい。
希望的にだが、１００年後のメキシコの人々がアメリカと肩を並べたのであれば、壁を壊して欲しい。
壁は、あなたが幸せだったら私が幸せだという言葉をさえぎってしまう。
それは、東西ドイツでもそうだったし南北朝鮮でも同じである。
物理的なことなのに、人のこころに大きな影響を及ぼす。
まだ現実ではないが、共和党のアメリカ大統領候補がやろうとしていることには、あなたが幸せだったら私が幸せだという言葉が感じられない。
２０１６年では、アメリカは世界１の経済大国であり世界で１番豊かな国である。
この豊かさを維持して守っていくというような姿勢を持たないことを祈るしかない。

世界のみんなが少づつ豊かになるしか人類が生き残る道は残されていない。
３０００年には、ほっておいても世界人口は５億人まで減ってしまう。
アメリカが、いくら勝手に入ってくるな。壁をつくると言っても、あの広い国土に数千万人しかいなかったら、狼やクマや鹿やバッファローの棲家になってしまう。メキシコ国境の壁は、アメリカからの狼のメキシコ侵入を防ぐ壁になってしまう。
３０００年に世界人口が５億人になってしまうのは、世界の国々が、自国ファーストになってしまうからだ。みんな２０１６年の東京やロンドンのように豊かになっていて、豊かを維持するためにあかちゃんを産まないのだ。しかも、アフリカやアジアもすべての国々が豊かになっているので移民の希望者がゼロなのだ。
アメリカなどは、雪崩のように人口が減っていく。
少し遠い先行きがこうなってしまうのに、２０１６年にメキシコ国境から勝手に国境を越える人たちに、確かに良くないのだが、大きな壁をつくって防ぐことは、先行きの世界人口５億人を確定させるかのような行為となる。
２０１６年までのアメリカは、例えば、人類で唯一核兵器を使った国家であり、その理由も、戦争終結が見えなかったからといったことなのだが、あなたが幸せだったら私が幸せだという雰囲気はないように、随所に、愛が少ないことを印象づけることが多いのだが、それでも、世界中から移民を受け入れてきたことは、もともとが移民の国とはいえ、世界のみんなに豊かさを分け与えるかのような、愛が大きいかもしれない行為だった。
もしかしたら、それが２０１７年には終ってしまうかもしれない。それはわからない。
民主党の大統領候補が大統領になれば、アメリカの移民問題は、現状を引き継ぐことになるだろう。
だから、まだどうなるかわからないのだが、ただ、アメリカが確実に変化していることは事実である。

○ロシアファースト

先月の状況では、もしかしたらロシアは、リオのオリンピックには参加でき

ないかもしれなかった。
そして今日はリオオリンピックの開会式である。ロシアの陸上競技の選手は参加できないが、その他の競技の選手でドーピング検査で、ロシア以外の国の検査をパスした選手は参加できることになったようだ。
ドーピング問題は、ずっと以前からあるのだが、国家ぐるみで疑われたのは、今回が最初かもしれない。
もしかしたら、以前の冷戦時代の東ヨーロッパでは、同じようなことがあったかもしれない。私は定かではない。
カナダでもアメリカでも、ドーピング問題はあるのだが、みんな個人の問題だった。もしかしたら、個人とコーチの問題かもしれない。
それだけに、もしホントだったら残念なことだ。
なぜこんなことになってしまうのか。
ロシアファーストがあるからだ。そしてマイファーストがある。
多分で申し訳ないが、効果はテキメンなのだろう。
私などは、毎月１度キツイ登りのある山に入る。明日入るつもりで朝からパソコンの前に座っているのだが、時々水を５００ミリを２本買いに行ったりしている。
朝が早いので、起きてパンとコーヒーだけですぐに出かけられるようにしている。
毎月行くのだが、先月は、全体の行程を９分も遅れてしまった。ものすごく暑くて。熱中症になりそうだった。
明日も猛烈に暑いらしい。
９分遅れてもいいとは思うのだが、急登の大汗と口で息をする声が、けっこう辛く思い出す。
多分、ドーピングのクスリは、私が今日飲めば、明日は、９分遅れではなくて、９分早く着いてしまうのだろうと思う。
それくらいに、私に元気をもたらすのだろう。
私はもちろんこんなクスリを使うつもりもないし、販売されているドリンク剤も飲まない。
私にはよくわからない。
日本で販売されているドリンク剤などは、ドーピング薬物とどこが違うのだ

ろうか。
私にはよくわからない。
とにかく私はクスリを使わない。
もう20年くらいクスリを使ったことがない。
風邪もひかないので。風邪クスリも飲まない。
しかし、こんな私でも、この急登を登れなくなったら、ドリンク剤を飲むのだろうか。ドーピング薬はどうしたら手に入るかわからないが、飲もうと思うのだろうか。
私には、不安はあるが、まだ飲もうとは思わない。
私はテレビを音を消してつけている。テレビはおもしろいので、テレビを見はじめたら手が止まってしまう。
だからテレビは見ないで音を消してつけている。
最近は事件が多いので、テレビから感覚的に現実を受け取らないといけないと思っている。
新聞は読めなくなった。
時間がないからだ。
そんなテレビでは、１日に何回も何回もサプリメントのコマーシャルがある。
私はサプリメントも使ったことがない。
私も、あの急登が登れないことが、その日の調子ではなくて、その日の気象状況ではなくて、わたしの衰えだと悟ったときに、私は、サプリメントを飲むのだろうか。
私のこんな感覚は、スポーツ選手が、ドーピング薬を使うかもしれない感覚と同じなのだろう。
あの急登を登れなくなったらヤルかもしれない。
それは、私もだが、個人の悔しさのためだ。
スポーツ選手がドーピングに手を出してしまう感覚は、誰にでもあるだろう。
だから、ドーピング薬などは、麻薬のように遠くに位置させて、法律で取り締まらないといけない。
私にはよくわからない。

どうしてドーピング薬が麻薬と同じようになっていないのかわからない。
ここまでは、私が自分で急登を登れなくなって悔しくなって、身体にマイナスになるかもしれないドーピング薬を飲む話だ。
麻薬と同じである。
それでも麻薬はなくならない。
密輸されてドンドン拡がるかもしれない。
しかし、麻薬はそこで終わりである。個人のリスクの問題だから、法律違反だから逮捕されて辛い人生を歩むことになる。
しかし、多分、よく似ているドーピング薬は、個人の問題だけではなくて、コーチの名誉にも関わっているのだ。
そして、該当する競技団体の名誉にも関わっていて、今回のロシアのドーピング疑惑のように、国家の名誉も関わっているのだ。
ここが、麻薬とドーピング薬の異なるところだ。
もし大麻が筋力増強に効果があるのだったら、大麻を国家ぐるみで使うことになっていると疑われたのと同じである。
そう考えると、この国家ぐるみのドーピング問題の怖さがわかる。
ロシアファーストの原点は、多分冷戦にある。
旧ソ連と社会主義国家群とアメリカと資本主義国家群の争いである。
どちらが優れているかを争った。
体勢の事だ。
当然ながらスポーツも強くないといけないという発想だろう。
実際にもキューバ危機やベトナム戦争などがあって、冷戦だけでは済まなかった。
おかしな話しなのである。
オリンピックのメダル数を争う戦いにもどちらの体勢が優れているかを表現しようとする。
当然ながら、アメリカやカナダなどでもドーピング問題が起こった。
ほとんど、戦争に近い。
今日リオオリンピックが終った。
ドーピング問題があったのに、ロシアの獲得メダル数が多い。
この国別獲得メダル数を見て、アメリカもイギリスも中国もロシアもドイツ

も日本もフランスも、その一時的権力者は、悔しくなったりするのだろうか。
これでは、お金を使えばメダル数は多いことになる。お金を使える国がメダル数が多いことになる。
国をあげてメダル獲得競争をやっていることになる。
スポーツはこういうものではないだろうに。
ロシアは経済的にも先行きも好ましくないかもしれない。オリンピックのメダル獲得数がアメリカを抜いて１位になったりしたら国威は上がるだろうが。
そんなロシアファーストでいいのだろうか。

○ジャパンファースト
海外の人は、日本がよくわからないだろう。
あの人たちはどうして真珠湾に出かけたのだろう。どうしてジャカルタまで出かけたのだろう。戦争をするためにだ。ジャパンファーストである。
日本だけが良かったらそれでいいのだ。
日本が栄えたらそれでいい。
しかし、多くの日本を訪れた人は、戸惑ってしまう。
日本の人たちは、旅行者である自分たちを気遣ってくれる。悲しい思いをさせてはいけないと思っているようだ。
だから、外国の人たちは、日本人がよくわからなくなる。
日本の人の本質は、旅行者を気遣う人である。日本の民の本質である。日本の霧の人たちの本質である。
日本の圧倒的多数を占める日本のみんなは、政治的には霧のようだった。
少数の権力者のために霧は存在した。
織田信長のうんと前からこうである。
２０１６年に日本に旅行にやってくる人は外国のみんなである。その国の霧だった。
日本のみんなは、霧のことがよくわかる。
しかし、日本には、もう１つの本質がある。

日本には数多くの権力者がいたし、その権力者を守った多くの軍人文人である武士がいた。
権力者は、当然のことながら、自分ファーストである。自分が領地を奪ったならば、自分の領地ファーストである。
そして多くの武士によって守られた。
この人たちに、外国からの旅行者を気遣えといっても難しい。
なんで真珠湾にまで出かけたのかを聞いても返事などない。それは作戦上の問題だから明らかにできないのだ。
こんな人たちが多くいるのも日本の本質である。
この人たちにあなたが幸せだったら私が幸せだと思って行動してくれと言ってもピントがズレてしまう。
そういうことではないのだ。
自分たちファーストなのだから。
多分、この２つの本質が日本にあることが、外国の人は理解できないだろう。
そして、70年前の戦争で被害を受けた人たちは、日本の旅行者を気遣う本質を持つ日本のみんなを信用しない。
権力者にすぐに追従してしまうと思っているのだ。
歯止めにならない。そして日本のもう１つの本質を恐れる。ジャパンファーストな日本人を恐れる。
さて、日本ファーストはどうなるのだろうか。
２０２０年にまた東京オリンピックをやる。
総理大臣も都知事もリオに出かけていた。
やはりジャパンファーストな日本人なのだろう。
報道も連日国別メダルランキングを報じる。
みんなが、日本の獲得メダルが多くなることをひたすら望んでいるのだ。
２０２０年の東京オリンピックでは、選手強化の予算を削ることもないだろうし、確実にメダル獲得数が増える。
約束されているようなものだ。
日本の国家の赤字は１０００兆円を越えて更に膨らんでいて、会社の所得も個人の所得も増えないから税収も伸びずに、更に国家赤字は増してしまう。

これは日本のみんなが買っている国債だから、最後は、みんなに１千万円づつ出してもらえばよい、とでも考えているかのような対応である。
こんな状況では、下手に、少しは質素に暮そうではないかとか、少しは予算を削減して赤字を減らそうとかの正論を吐くと、選挙で落選してしまう。
ただ２０２０年にはどうなっているかは、かなりはっきりしている。
日本の国家の赤字は更に増えているだろうが、オリンピックでの日本の獲得メダル数は大幅に増えているだろう。
日本の国家予算も１００兆円を維持しているだろう。
国家予算１００兆円を維持してさえいれば、日本のみんなの豊か感を維持できる。
ただ国家の赤字だけが増え続けるだけだ。
いつか誰かがババを引くことになる。
１人１０００万円拠出命令である。
１回限りの政権と総理大臣である。罵倒されて生きることさえタイヘンである。
ただ、２０２０年には、まだ起きない。
そうまでしてもジャパンファーストをやりたいのだ。
このままなら、誰かがババを引くことになるのだが、来年の国家予算も１００兆円を確保しようとしている人たちにとっては、決して、ババを引く人など予定はしていない。
今に経済が再活性して溢れるような税収が納付されると思っているのだ。そのための施策をあれこれ実行しているのだ。
いまのところ、これといった妙策は見つかっていないようだ。
公的年金のＧＰＩＦによる運用を株式中心にしたことで株価が上昇して、富裕層にはホッとさせている。
一方で、ＧＰＩＦが株式運用を中心にすることで、下手をすると大きなマイナスを稼ぐことになり、年金積立金が目減りするのではないかと心配されている。
世界最大の投資機関である。
これが日本にあることは、日本の株式市場にとっては大きい味方である。
日本経済にとっての大きなマイナス材料が発生しない限り、この世界最大の

機関投資家は、株価の味方になってくれる。
日本にどのくらいの割合の人がいるのかわからない。
株式の配当金や株式を運用することを主たる収入にして暮している人の数だ。
かなりムリをして富裕層に豊かさを感じてもらえるように手を打っている。
こうして更に豊かになった人たちが大きな消費をしてくれることを期待しているのだが、今のところ、そこには繋がってはいない。
中国の人の爆買いの方が目立ってしまう。
２０１６年の日本では、豊かを維持するエクスタシーに陥っている。日本の一極目の生活者は、８０００万人くらいいるのだろう。みなさん豊かに暮している。一方で６人に１人の子どもが貧困に苦しんでいる状態である。
スマホの使用料とコンビニ弁当とシェアーハウスの賃料だけの収入で暮している二極目の生活者が３０００万人に達するだろう。
政治はもちろん一極目の生活者しか見ていない。
政治も選挙が大事だから、一極目の生活者の希望を受け入れる。
国家予算１００兆円を維持する。一極目の生活者には税金を収入にしている人が多いのだ。
経済を活性させて税収を多くする道に特段の策が見つからなくても、国家予算を１００兆円から下げることはできない。
このままではいつか誰かがババを引くことになる。
１０００万円強制徴収だ。
ババを引くのがイヤだったら他国を襲って略奪することになる。昔通った道である。
日本の難しさは、借財を返還するためにみんなで質素に暮そうということができないことだ。
３年間半分の収入で暮せばかなりの借財が返せる。
しかし、政権は潰れる。
何よりも、２０２０年の東京オリンピックのように、ジャパンファーストでいたい権力者ぽい人が日本には大勢いることだ。
なかなか難しい。
観光客が日本に来て感心する日本の人のこまやかな心遣いはあなたが幸せ

だったらわたしが幸せだと思わせるものなのだが、一方で、いきなり真珠湾にまで行ってしまう日本人がわからなくなる。
どっちがホントの日本の人なのか。
２番じゃいけないんですか？
私などは、順番など何番でもいい。
福島原発の処理のために、毎年何兆円も何十年もかかってしまうのはジャパンファーストではないから忘れてしまいたい感覚が日本人のワルイ因習にあることが残念である。
それでもなんでオリンピックなどやるのか私にはわからない。
年々、ジャパンファーストどころではない状況ができてくる。

○ドイツファースト
ドイツの女性首相を見ていると、どうしてたかだか80年くらい前に、ドイツファーストを目指すような人を権力者に選んだのだろうか。
一時的な権力者ではなくて、フランスの英雄のように自分が皇帝になって権力者になったかのようである。
現在の女性首相には微塵もないものをどうして持っていたのだろう。
どうしてドイツファーストが先鋭になったのだろう。
よくわからない。
油断をすると、またあのようなドイツファーストの人が現れるのだろうか。
安心はできない。
１つの民族を滅ぼしかねない行為を行ったのだ。
確かに人は、権威に対して追従するエクスタシーを持っている。そこに気が着いてしまったのだろう。
１９３０年までの世界の権力者は、同じ方法を用いて、圧倒的多数のみんなを従えてきた。
圧倒的多数のみんなからでは、大きな権威の前には追従するという、いいとかワルイではないエクスタシーが動いてしまう。
ドイツファーストに注意が必要なのか、ドイツのみんなの追従のエクスタシーに注意が必要なのかよくわからない。

追従のエクスタシーでは、日本のみんなと同じようなところがあるというか、あった。
それでも、先鋭的なドイツファーストの人が現れなかったら、ドイツのみんなは追従しないのだから、やはりドイツファーストに注意が必要なのだろう。
私は日本人だからドイツの人のことはリアルにはならない。
２０１６年のように、多くの難民を受け入れて、ＥＵが崩壊しないように努力をしている姿は好感が持てる。
ドイツ国内にも、ドイツファーストの人がたくさんいて、ドイツ人が稼いだお金を難民のために使うことには反対する人も多いだろう。
予想できる。
あまりムリをしないで、現在の立ち位置を守って欲しいと思う。
あまりムリはしていない。
１９６８年に日本に抜かれて経済大国３位になっても、日本を追いかける兆候などなかった。中国にも抜かれて世界の４位になっているのだが、何度も女性首相は中国を訪問している。
私はドイツを旅したことがある。
印象として、近代的なビルが立ち並ぶ経済大国というより、昔の美しいドイツを大事にして、穏やかに質素に暮している印象なのだ。
こんな風景が80年くらい前にあった先鋭的なドイツファーストと結びつかない。
あれは何だったのか。
武力のことでは、世界は核兵器の時代に入っていて、当然の事ながらドイツは核を持たないし日本も持たない。
ドイツのみんなは世界に迷惑をかけた認識が大きい。そこは日本のみんなとは少々異なるところだ。
日本のみんなには、世界に迷惑をかけたという反省が薄い。
今日、アメリカ大統領選挙のテレビ討論があった。１回目だ。メキシコ国境の高い壁を主張している候補の、日韓の核武装容認論に近い多額の守られ費用を迫る発言と、女性候補の、日韓の核武装容認は、世界唯一の脅威である核の拡散を抑える意味から反対する発言がぶつかった。

テレビ討論結果でも、アメリカのみんなは、大局的には、核の脅威をアメリカがリードして少なくすることに賛成なのだろう。
アメリカファーストだけではない。
もしアメリカがドイツや日本や韓国やサウジアラビアやオーストラリアなどを守れなくなったら、やはり、ドイツと日本が危ないのだ。
自国の核兵器開発論を排除できなくなる。
核兵器が拡散すればするほど、ボタンを押す確率が増えるわけだから、危険は高まることになる。
現在隣の隣の国の核武装がリアルになっている。
大国ではないのに核武装だけがどんどん進んでしまう国家が増えると、ホントに危なくなる。
私は世界は３０００年には豊かを維持するエクスタシーのために５億人になると言っているのだが、３０００年までもつかどうか疑わしくなるかもしれない。
私のドイツの印象は、世界に迷惑をかけたから静かに暮すというものだ。質素にしている。意外だった。
ドイツこそＮｏ１が強いと思っていたのに意外だった。
ドイツの指導者には、ドイツが経済的な危機に陥らないように注意をしている。そして周辺国と争わないように注意をしている。そして、経済的には、先んじないことも注意している。
すべて72年前の世界大戦の反省からきている。
経済的危機からの国内的不満が外国に向けられた反省である。
２０１６年のドイツは、プライマリーバランスを大事にした国家運営を行っている。
日本のようにプライマリーバランスを無視してまで経済成長を追い求めることはしていない。
日本はたまたま親父さんたちがお金持ちであるために、息子の借金を賄っているのだが、息子もいいかげんに収支バランスをとった運営をしないと、いくら金持ちの親父であっても、もたなくなる。
日本の場合は、いまだに経済大国Ｎｏ１を目指す雰囲気がある。Ｎｏ１パーティーにはある。赤字国債を発行してまで年度予算１００兆円を守ろうとす

る。
ドイツでは、収入が少なくなれば予算を少なくして質素に暮らすのだろう。
プライマリーバランスを大事にする。
明らかに、ドイツファーストよりもジャパンファーストのほうが危険である。
ドイツでは、原発を将来的に破棄することを決めているのだが、日本では、経済成長のためには原発のチカラが必要だと考えられている。
明らかに、ジャパンファーストがドイツファーストより危険である。
80年くらい前は、経済的に立ちゆかなくなって略奪に走った。
ドイツが過ちを繰り返さないようにしている教訓を、日本は何もしていない気がする。
せめてプライマリーバランスくらいは維持しないといけないだろう。
経済的に立ちゆかなくなったら略奪しかなくなる。
やはり経済は大事だ。日本の１０００兆円を越える借財を気にする必要はないという専門家ぽい人もいるのだが、その人達はジャパンファーストが念頭にあるからだ。
世界に迷惑をかけたら静かに暮らすという考えではないのだ。成長のための予算を削減したくないのだ。プライマリーバランスを崩しても。
これは経済問題ではなくて、あなたが幸せだったらわたしが幸せだという愛の問題なのだ。
日本の今のやり方には愛が感じられない。
１０００兆円の借財を無視するかのような発言にも少しの愛など感じられない。
日本よりもドイツの方が愛が厚いと言っているのだが、それでも、80年前のドイツを思い起こすと、いつ何時昔のドイツファーストが戻ってくるかもしれない。
安心はできない。
現に、ドイツファーストのパーティが勢力を伸ばしているのだそうだ。
先のことはわからない。
日本だって、いきなり愛が大きくなってプライマリーバランス重視の安定した運営をはじめる政権が誕生するかもしれない。

先のことはわからない。

○中国ファースト

近年の中国では、香港をイギリスに占拠されたり、日本に満州を占拠されたりで、散々だった。
１９４５年以降は、中国ファーストが著しい。
昨日ロケットを打ち上げた。先に打ち上げていた宇宙船とドッキングするのだそうだ。
中国は、どんなことにも中国ファーストが顔を出しそうである。
なんといっても、人口がすごい。13億人である。
経済は人口でもある。
経済は再生産と消費だから、人口が大きくないと消費が膨らまない。
日本の10倍の人口があるわけで、日本だって、今の10倍の人口があったら、ものすごい経済規模になっている。
日本では、人口に対してネガティブな反応が常だった。
人口が増えると食糧危機がある。人口が増えると耕地や住むところが足りなくなる。治安も不安定になる。ガバナンスも不安定になる。なんとか人口増加を抑えなければならないという雰囲気だった。
日本は確かに小さな島国だが、もし今の10倍の人口である13億人がいたとしても、日本は、なにもなく、穏やかに暮しているだろう。
２０１６年の日本では、１億２千万人の人口なのだが、日本の端の方では、もうクマが勢いを増しているのだ。
机上での計算では、13億の人など狭い日本に住めそうもないのだが、東京の現状を考えると、意外だろうが、なんともないだろう。
しかし、残念だが、日本では、人口増加にネガティブだった。中国でもネガティブに１人っ子政策をとった。
しかし、実態は、まるで異なった事態になっている。
人口が増えることのネガティブになっているのは、日本や中国の権力者ではない権力者ぽい人達であって、日本や中国のみんなは、全く別のことを考えている。

日本や中国のみんなは、豊かを維持するエクスタシーに陥っているのだ。
豊かを維持するエクスタシーは、一旦豊かを経験した社会においては、豊かさを維持することが最大の希望になって、あかちゃんを産まなくなってしまう。
あかちゃんは必ずしも自分の豊かさにプラスにならないと思われているのだ。
これは日本や中国だけの問題ではなくて、古代ギリシアやローマでも同じ、そして日本よりも早くに豊かになったヨーロッパ各国が共通して抱えている難問である。
アメリカも豊かになった国なのだが、アメリカは移民の国であって多くの移民を受け入れている。
もしアメリカが移民政策を変更すれば、一気に人口減少に陥る。それはアメリカが豊かを維持するエクスタシーであるからだ。
現在アメリカは大統領選挙の真っ最中なのだが、１人の候補は、アメリカファーストを唱えている。もしかしたら移民政策も変更するかもしれない。
もっと大局を見ることが必要だろう。
中国では１人っ子政策を転換させたのだが、中国の人々の豊かを維持するエクスタシーを止めることは難しい。
中国は、今後急速に人口が減少していく。
中国は現在南シナ海で海洋の権利を巡ってモメている。日本との海洋の権利でもモメている。
しかし、１００年後の中国ではシンドイことになっているだろう。
この広大な土地に人口が少なくなってしまうからだ。
当然こととして経済の勢いも沈静する。
中国は、日本と同じように、移民を受け入れないだろう。
たとえ人口が５億人になっても中国の人々は豊かを維持する。
中国ファーストがどうなるかだ。
国家には愛はないから、中国ファーストを止めることは難しい。
それは中国だけの問題ではなくて、どこの国でも同じ問題を抱える。
地図だけ見ると、フィリピンの沖の岩礁を埋め立ててまで自分の領土を拡張することはないのではないかと思わせてしまう。

北海道を車で旅していた時代があった。
知床の羅臼岳の下を横切って羅臼町に出たときに、裸眼で国後島が見えた時には驚いた。
ロシアには広大な土地があるのに、北海道から裸眼で見える島などどうでもいいではないかと思うのだが、国家はそうはいかない。
国家には愛がないから、あなたが幸せだったらわたしが幸せだといったようなことを思うこともないし言葉にもしない。
国家は競争覇権社会を生き抜こうとする。
幸いなことに、恒久的権力者は少なくなってきているのだが、少しのチャンスがあったら、たとえ岩礁のような島であっても、覇権する。
２０１６年になって、72年前にドイツや日本が行ったような、武力で覇権することなどはできないが、しかし、国家に愛がない以上、国家の心根は、常に競争覇権なのだ。
フィリピンの沖ではないと言っても、なんだかんだと理由を並べて競争覇権行為を行う。それが国家である。
２０１６年の中国ファーストも、こうなっている。
中国の先行きは決まっているのだが、しばらくは人口が10億人を越える。経済的にも大国を維持する。
インドに抜かれるには少し時間がある。
中国ファーストが世界を混乱させなければいいのだが。

アメリカ大統領の広島訪問

○アメリカの新しい大統領

２０１６年６月14日、アメリカの大統領が広島を訪問した。
アメリカの大統領が広島を訪問するのははじめてのことだ。
アメリカの原爆投下は、アメリカでは、当然のことだが、原爆投下を正当化している。
幼いときから学校でも教わっている。
広島と長崎への原爆投下は致し方なかった。
こうしなければまだ戦争は続いた。
これがホントかどうかなどはどうでもよい。
そういうことではない。
権力者は、武器があったら使いたくなる。
これを阻止することなど難しい。
１９４５年以降に核爆弾が使われないことが奇跡である。
こういうことは権力者ぽくない。
多分、１９４５年以降では、権力者がいないのだ。
主権者はみんなになっていて、みんなの代表を選挙で選んでいるのだ。
一時的な権力者に過ぎない。
任期があって、任期が終わったら隣のおじさんかおばさんに戻ることになる。
一時的な権力者では私欲の大きさが恒常的な権力者とは異なる。
恒常的な権力者では、地球のすべてを自分のものにしないと満足できないかのようである。
昔の権力者は、世界制覇を競った。
アメリカの２つの核爆弾の投下時には、アメリカには権力者ぽい人達がいた。
エスタブリッシュメントだ。
権力者ではないのだが、アメリカの主権者は国民なのだが、アメリカには明

確にアメリカの権力者ぽい人達がいる。
権力者のように地球の覇権を目指すわけでもないのだが、アメリカファーストを目指す人である。
アメリカが２つの核爆弾を使ったのだが、２０１６年の６月14日アメリカの大統領が広島を訪れた。
核爆弾を使った大統領である。もちろん人は違っている。
現在アメリカの大統領選挙の開票を行っている。
夕方になって男性の大統領候補が有利になってきている。
この人は広島を訪れるかを書きながら考えてみた。
多分、この人は広島を訪れない。
残念だが、新しくなるであろうアメリカの大統領は、愛が少なくなるだろう。
また、以前のアメリカに戻るのだろう。
以前のアメリカというのは、世界１になりたかったのだ。
アメリカは２０１６年でも、政治的にも軍事的にも経済的にも世界１なのだが、新しい大統領を選択しようとしている意味は、このままでは、アメリカはＮｏ１を逃すと思っている人が多いからだろう。
女性の大統領では、Ｎｏ１を目指せないと思っているのだろう。
アメリカは昔に戻ってしまう。
競争覇権社会の再来である。
世界に民主主義を普及させたくておせっかいな行動をすることなどないかもしれない。
どこかの国で人権に問題があると指摘するようなおせっかいなことはしないかもしれない。
アメリカは、他国のことにとやかく言うほど余裕がなくなってきたのだ。
ＧＤＰだって中国に抜かれてしまうだろう。
今日の日本の株は一時１０００円も値下がりした。
円も１０１円になった。このままでは、90円台に入るかもしれない。
日本経済は大きな痛手である。
先ほどのイギリスのＥＵ離脱に続いてのショックである。
当然ことながら、新しいアメリカの大統領になるかもしれない男性候補は、

日本経済に混乱を及ぼすことなどどうでもいいのだ。
女性の大統領候補が大統領になれば、様々な配慮をすることになるのだろうが。
アメリカが大きく変わる転機である。
２０１６年11月９日日本時間だ。歴史的な日になる。
アメリカは、以前から、今回のような難問を抱えていた。
以前から、アメリカのエスタブリッシュメントがリードしてきていたのだが、一方で、移民政策があるために、新しいアメリカ国民が誕生して、移民の人達の豊かになるスピードが問題だった。
近年次第にアメリカに移民した人達の豊かになり方が鈍って、新しい移民を拒否する風潮が出てきたのだ。
圧倒的に多くの人達の豊かになり方が鈍ったら、アメリカのエスタブリッシュメントに対する反発が表面に出てくる。
アメリカのマスコミも日本のマスコミと同じように、すでに豊かな人達になっているのでアメリカの変化が見えないかもしれない。
今日でアメリカの大統領選挙が終って22日である。
思ってもみないことが起こってしまった。
まさか暴言を吐き続けたオトコの大統領候補が当選するとはみんな思わなかっただろう。
６月14日にアメリカの大統領が広島を訪問して原爆ドームに行った。
そして11月８日に新しい暴言大統領が誕生した。
日本経済の反応は好ましい状態になっている。予想に反している。ビジネスマンである新大統領の手腕期待なのだろうか。
アメリカの経済が活性したら日本も助かる。
しかし、まだ先行きは不透明なのだろう。
どうしてこうなってしまったのだろう。
ワシントンのアメリカのエスタブリッシュメントは、地方都市の経済的にハアハア言って苦しんでいる多くの生活者によって、反乱されたのだ。
新しい大統領は、よく読んでいた。確かだった。
多くのアメリカの人たちは、アメリカのプライドや世界のリーダーなどを誇っている場合ではなくなっているのだ。

ワシントンやニューヨークのマスコミを含めてのエスタブリッシュメントは、依然として、グローバリズムに目があって、言葉はワルイが競争覇権的である。アメリカのプライドが大事である。
しかし、もうそんなことをいっている場合ではなかったのだ。アメリカの地方の生活者は、明日食べることにも思案し始めているのだ。
生産を海外に移してしまっているので職がないのだ。しかも、スマホのような新しいジャンルの生産を外に出して石炭などの旧い仕事を国内に残している。
多くのアメリカの生活者は、経済的にハアハア言っているのだ。
ワシントンやニューヨークの生活者でも、もしかしたらカナダに移住したくなる人が多いかもしれない。
アメリカは困ったことになってしまった。
困ったことにはずっと前からなっていたのだ。
たまたま、アメリカの大統領は、２つのパーティのいずれかから大統領が出ているので、こんな辛い現実が隠されていたのだろう。
しかし、２０１６年には、それをも越えてしまった。アメリカの生活者の多くは、経済的に困窮しているのだ。
ワシントンやニューヨークのアメリカの人を見ていると、世界１の豊かな人たちのように見えてしまう。
新しいアメリカの大統領もアメリカの中でも超豊かな人の１人である。
このような人がよくアメリカの実態を見抜いたと感心してしまう。それとも、誰かコンサルタントがいたのだろうか。
とにかく、アメリカは、もうプライドなどと言ってはおれない。
新しいアメリカの大統領も従来のアメリカのエスタブリッシュメントと組んでしまうことはできないだろう。
世界の政治に詳しいワシントンの人達とは仲良くできない。
アメリカでは、いままで引っ張ってきたアメリカの権力者でもないのに権力者ぽくしている人たちへの反感が強いのだ。
今日も新しい閣僚が発表されている。
まったく新しいパーティからの人事だけでもやっていけないのだろう。
しかし、顔ぶれは新しいのだろう。

人事が終ったら予算だろう。
ワシントンの人たちは、すでに数千人の人事異動が決まっている。これから具体的になる。そして予算である。
なにせ３１０兆円規模の予算である。
アメリカの大統領は凄い権限がある。
果たして、アメリカの地方都市の経済的にハアハア言って新しい大統領を支持した生活者は、自分たちの思うように、お金が施策が回ってくるのだろうか。メキシコとの国境の壁はどうなるのだろうか。
ドイツやエジプトや韓国や日本に駐留して守っている軍事費の負担を多くしようとしてくるのだろうか。
アメリカの国家予算も日本と同じように赤字財政である。
少しでも減らそうとするだろう。

○アメリカ大統領の広島訪問

２０１６年６月14日、アメリカの大統領が広島を訪問した。
アメリカの大統領が広島を訪問するのははじめてのことだ。
アメリカの原爆投下は、アメリカでは、当然のことだが、原爆投下を正当化している。
それにもかかわらず、日本の人たちは、アメリカの大統領の広島訪問を歓迎した。
アメリカ国内では、アメリカ大統領の広島訪問に慎重論もあった。
原爆投下は国家的犯罪であるという議論に巻き込まれるかもしれない心配だったのだろうが、ワシントンのエスタブリッシュメントの人たちは日本の生活者をよく知らない。
日本の生活者は、他の国の指導者が言うような、原爆使用は国家的犯罪であるといったようなことは言わない。
多分、理由がわからないだろう。
アメリカのワシントンの人たちのように、競争覇権社会を引っ張ってきた人たちには見えないと思う。
核爆弾は武器なのである。

戦争だから武器を使う。
広島や長崎の人は、核兵器は武器だとは考えていない。
広島や長崎の人は、核兵器は、生き物を地球から抹殺する術だと考えている。
広島や長崎の人だけではなくて、多くの日本の人たちは、このように考えている。
単なる武器だったら、戦争があればまた使う。
人類を抹殺する術だとしたら世界中の人が同じ考えになるように訴えなければならばならない。
たまたまだが、現在のアメリカの大統領は、核兵器を人類を地球から抹殺する術だと考えていたのだ。
しかし、２０１６年のアメリカの大統領選挙で、新しい大統領が誕生した。
アメリカの地方の経済的に苦しい人たちの支援を受けた。
新しい大統領が核兵器をなんだと考えているのかはっきりわからない。
ワシントンのエスタブリッシュメントの一部にあるように、武器だと考えるのだったら、悲しい将来が待っている気がする。
たまたまだが、多くの核兵器を所持しているロシアの大統領も、かって、核兵器は武器であるかのような発言をしている。
新しいアメリカの大統領が核兵器をなんだと思っているのか定かではない。
少々の不安がある。
新しいアメリカの大統領は広島を訪れようとするだろうか。
予想で申し訳ないが、多分来ない。
新しいアメリカの大統領は、ワシントンやニューヨークではない地方の生活者の顕在的な困窮を必死で防がないといけない。
４年後の再選はなくなってしまう。４年くらいすぐに来てしまう。
なんといっても、世界でもっとも多くの核兵器を所持しているアメリカの大統領である。
もしものことがあれば、ホントに人類の危機になる。たかだか１００年前には、こうなるとは思ってもいなかった。
誰も思ってなかった。
おかしなことに、広島と長崎があるにもかかわらず、日本に原発が50以上

あって、アメリカには１００次がフランス３番目が日本だ。世界では数百基があるのだ。
こんな状態で核兵器を武器だと思ってしまうと、とんでもないことになる。
地球は放射能の星になってしまう。
そもそもが、地球の人口が増えすぎて、水が足りない食料が足りない電力が足りないということで、こんなにたくさんの原発になっている。
ホントなのだろうか。
あの人たちは、どうあってもやりたいのではないか。
人はそういうものだ。
できるとわかったらやりたいのだ。
ダメだとわかっても止めないのだ。
日本などは人口減少である。
これ以上の電力は必要ないのではないか。
ヨーロッパも人口減少である。
確かに１００年後は現在の72億人から１００億人になるかもしれないが、その後はみんな豊かになるから、豊かを維持するエクスタシーが世界的に蔓延して、あかちゃんを産まなくなって。世界は人口減少に陥る。
私は、３０００年には世界人口は５億人になってしまうと言っている。
多分、このような考えに多くの科学者が反対である。
科学者は、自己実現が最高の喜びなのだ。
火星に行けるかもしれなかったら、１番に行けるように研究するのだ。
移住計画などが計画できそうだと、計画したいのだ。
３０００年に人口が５億人になってしまう話しなどには付き合っていられない。
ほとんどの科学者を席巻している自己実現の風潮は、他者の話しに耳を貸すことなどない。
当然のことながら、核爆弾や原発はできてしまうのだ。
やれるからやりたいのだ。
核兵器については、アメリカの大統領の広島訪問で、できるけでやってはならないことがあることを了解したことになるのかもしれない。
しかし、アメリカ国内の原爆投下正当論は、日本の人たちが考えるほどに、

緩やかなものではないだろう。
もしあの戦争が長引いたら、自分の近親者の兵士も危なかったかもしれないと考えてしまうだろう。
もっとアメリカの多くの人が広島を訪れる必要があるのだろう。

○日本の総理大臣が真珠湾を訪問した

１９４１年12月８日日本は真珠湾を総攻撃した。
多くのアメリカの兵隊が亡くなった。
アメリカ海軍は大きな被害を受けた。
事実上の日米開戦だった。
私は平家と源氏の戦いをたとえ話に出すことが多い。
頼朝や義経が生き残ったことが、そもそもの平家が滅んだ理由なのだが、最後は、源氏の遺恨が、平家を滅ぼしてしまうところまで進んでしまった。
平家には、主たる武将は誰も生き残らなかった。
１９４１年12月８日の日本の真珠湾攻撃は、日本に対して遺恨の残るものだった。
もしかしてその遺恨が、１９４５年の広島と長崎の核爆弾投下だったら、恐ろしく残念なことである。
多分違う。
広島と長崎の核爆弾の投下は、自己実現の世界なのだ。やれるからやりたいのだ。
科学とは常にこうだ。
ただ、真珠湾攻撃が、広島長崎原爆投下の正当論に大きく影響していることは事実だろう。
アメリカの大統領が現職として広島長崎を訪問しにくかったことと同じように、日本の総理大臣も、現職として真珠湾を訪問しずらい。
日本の中に、真珠湾攻撃の正当論があるからだ。
平家と源氏は９００年を要しても、私などが、げんじあきらを名乗っていても、下関では妹にバカにされる。
下関では壇ノ浦に沈んだ平家をみんなでひいきにしているのだ。

９００年経っても忘れないのだ。しかし忘れないが遺恨にはしない。もう平家は再び源氏に戦いを挑むことはない。これが因縁にしてしまうことだ。
人と人の争いは、因縁にするしか和平への道はあり得ない。
忘れないが遺恨にはしないことだ。
因縁にすることだ。
もし因縁にできなかったならば、人は永遠に戦っていることになる。
日本の総理大臣が真珠湾を訪問したことが、真珠湾は忘れないが遺恨にはしないという因縁になってくれたのだったら、こんな好ましいことはない。
もしかしたら、アメリカと日本は、２度と戦わないことになるかもしれない。
もし因縁になっていたら２度と戦わない。
しかし、日本のみんながアメリカに対して因縁と感じるようにはアメリカのみんなは因縁に感じていない気がする。
まだ時間が経過してみないとわからない。
壮絶なことがあったのだが、平家と源氏のようになるかどうか。
まだ80年に満たない。平家と源氏は９００年である。
日本はまだアジア各国との忘れないが遺恨にしない手続きのようなことを行っていない。
アメリカの大統領が６月に広島を訪問して12月に日本の総理大臣が真珠湾を訪問したようなことだ。
アジア各国とは、何を手続きにすればいいのかわからないのかもしれない。
アメリカと日本には、相互訪問の手続きがあった。
しかし、日本とアジア各国には、特にアジア各国には、日本を現職のトップが訪問する理由がないのだ。
忘れないが遺恨にする手続きがないのだ。
相互訪問する手続きがない。
韓国でも慰安婦問題で揺れているし、中国では、様々な問題が置き去りにされているのだ。
北朝鮮も拉致問題も含んで、アメリカ大統領の広島訪問と日本の総理大臣が相互訪問したようなことができないのだ。
他のアジアの国ではどうなのだろうか。

相互訪問して忘れないが遺恨にしない手続きがないことはわかっているのだが。何をすればいいのかわからない。
この先、アジアの国々と忘れないが遺恨にしない手続きをしないと、因縁にならない。
またいつか、忘れないから遺恨にするになってしまうかもしれないのだ。
たまたまだが、アメリカと日本は同盟関係にあるので、このような手続きができたのだろう。
アジアの各国とは、因縁については、まだ迷走しているのだろう。
しかし、平家と源氏を見るまでもなく、忘れないが遺恨にしない因縁にたどり着かないと、お互いを、あなたが幸せだったら私が幸せだという感覚にならないのだ。
もしかしたら、まだたった72年だから、まだ相当の年月を必要とするのだろうか。
日本の場合は、ロシアとも忘れないが遺恨にしない因縁にしなければならない。
今のままでは、忘れないが遺恨にしないとは誰も言ってないのだ。
こっちもたったまだ72年だから、相当な年月が必要な気がする。

○ポピュリズムが心配

あなたが幸せならば私が幸せは愛のことである。
こころは愛とよろいでシェアーしているが、フツウは愛が20によろいが80である。
もしアメリカの大統領が、６月に、これからの日本のみんなに、あなたが幸せだったら私が幸せだと言ったのだったら、それは素晴らしいことだ。
日本の総理大臣が、真珠湾で、これからのアメリカのみんなが幸せだったら私は幸せだと言ったのだったらそれは素晴らしいことだ。
因縁というのは、結局、こういうことを意味する。
どんなにいさかいがあっても、どんなに悲惨な出来事があったとしても。
人はいつかは、忘れないが遺恨にはしないという因縁に持ち込まないといけない。

それは、あなたが幸せだったら私が幸せだという地点までだ。
それは、愛の領域である。
今心配なことは、ヨーロッパで流行っているポピュリズムである。
ポピュリズムは、権力者と追従者の時代の、追従者が、現状に不満があるときに、より強い権力者を望んでしまう状況になることだ。
もちろん２０１７年には恒常的な権力者はいないのだが、選ばれて任期のある権力者になるかもしれない人の中には、追従者の期待に応えるかもしれない人もいるのだろう。
２０１７年のヨーロッパの各国の追従者の不満は、ＥＵ内の格差問題である。ＥＵ内であれば自由に行き来することができるのだが、豊かな地域に行きたがる人が増えると、豊かな地域の人は、オレ達の稼ぎを渡したくないになってしまう。
そして現在困っている問題は、難民の問題である。
多くの難民をＥＵ内で受け入れているのだが、豊かでない地域では、難民を賄う財源に苦心をしなければならないのだ。
どうしてもみんなには追従のエクスタシーがあるから、このような不満を解決してくれる権力者ぽい人を望んでまう。
80年くらい前、ドイツの追従者の不満は、ポピュリズムを生んで、１人の任期のある権力者であるにもかかわらず、恒常的な権力者になってしまった人がいるのだ。
ポピュリズムが心配ではなくて、権力者と民の時代に権力者に追従するしかなかったみんなのエクスタシーが問題なのだ。
たとえ、権力者ぽい人にその気はなくても、追従のエクスタシーが、みんなが問題なのだ。
かって追従者は、権力者を選ぶことなどやったことがなかった。
おかしなもので、一旦選んでしまうと、恒常的権力者に近いところまで自分の権力を大きくする投票をやってしまう。
２０１７年のような、ヨーロッパ各国に不満が大きくなっているときは危険である。
すでにヨーロッパには、１度暴発した経験がある。
そのときは軍事力に発展したのだが、２０１７年では、ヨーロッパのどの国

も、軍事力を使うことはできない。
軍事力を使うことはできないのだから、それなりの制限がある。
移民制限や難民制限などになるのだろうが、ＥＵからの離脱問題が大きなテーマとなってしまうだろう。
それ以上の進展をしてほしくはないのだが、なにせ80年前の出来事があって軍事力に発展しているので、油断はできない。
ヨーロッパのどの国も、豊かになっている想いがないだろうから、けっこう、ポピュリズムの嵐は吹いてしまうかもしれない。

日本はどうなるのか

○区長選挙

昨日千代田区の区長選挙があった。
都知事が応援する現職の候補者が圧倒的な差で当選した。現職の大臣２人を張り付けてもどうにもならなかった。
東京都知事はオレ達が決めるという勢いだったのを覚えている。日本のＮｏ１パーティーだ。
区長選挙に過ぎないのだが、日本の政治には大きな影響を与えるだろう。
２００９年にＮｏ１パーティーはＮｏ２に転落したのだが、なんだか同じシーンを見ているようである。
都知事はオレ達が決めると言っていたのと同じようなシーンなのだ。
ところが、交代した次のＮｏ１パーティーも同じようになってしまった。
権力者ぽくなってしまうことだ。
おかしな話しなのだが、日本の主権者は日本のみんなになっているのだ。どこかで勘違いが生じてしまう。
東京都知事はオレ達が決められないのだ。
どうして毎度毎度勘違いが起こってしまうのだろうか。
今回の区長選挙では、東京都知事はオレ達が決めると言った人たちがＮｏ１パーティーをやっているのだから、ハナから勝負は決まっているようなものだ。
みなさん、大阪や東京に住む人の心情をよくわかっておられないのだと思える。
東京都知事はオレ達が決める。
あんたたちの思うようにはさせない。
大阪でも同じようになってしまう。
大阪でも鼻柱の強いピッタリの人が現れたし、東京にも少々のことではビクともしない人が現れたのだ。
共通しているのは、あんたの思うようにはさせないである。

東京都知事だってＮｏ１パーティの１人のだが、アメリカの人にはちょっと理解できないかもしれない。
もし、東京の区長はわたしが決めます的な発言が多くなったら。
この人だっていつか同じようになってしまうのだろう。
あんたの思うようにはさせない。
今年の夏には、東京都議会の選挙がある。
非常に興味深い。
この流れは、あんたの思うようにはさせない流れなのだが、底流はなんだろうか。
都民ファーストであったり、都民の皆様のご意見をお伺いしてといった発言が底流なのだろう。
これは権力争いなのだろう。
わたし達が主権者ですと言っているのだろう。
それは間違いない。
それなのに、東京都知事はオレ達が決めると言われたのではたまらない。
それでは、都知事はどんな存在なのだろうか。
もし、わたしは単なる皆さんに選ばれた代表に過ぎませんからと言ったら、これは夏の勝負も見込みが大きくなってくる。
そこがポイントなのだ。
アメリカの大統領の場合は、かえって、任期がはっきりしているので、国民のみんなの代表に過ぎないと言えそうである。
しかし、日本のように、Ｎｏ１パーティーが事実上の総理大臣の任命権者であったりするので、そのパーティーの１員になることが、大きな意味を持つ。
そして、そのＮｏ１パーティーの当選を繰り返していると、もう権力者ぽくなってくるのは必然である。
私が心配しているのは、新宿の高層都庁舎のことである。
私がテレビで拝見した２名の都知事の発言で、私は皆さんに選ばれた単なる代表に過ぎませんからという発言を本音で聞いたことがない。
私の心配は、たとえどんな人でも、あんな高層からしかも立派な建物から見下ろしていたら、東京都知事らしくしないといけないでしょになってしま

う。
建物に都知事を合わせてしまう。
承知をしているとは思うが、同じパーティーなのに、都民の反応がこれほど開いてしまうのだ。

○あんたの思うようにはさせない
今回の区長選挙で、Ｎｏ１パーティは先行きの展開に困ったことになっているだろう。
手がないのだ。
アメリカ大統領の流れと似たところがある。
あんたの思うようにはさせない。
アメリカのエスタブリッシュメントにみんながＮｏを突きつけたことと似ている。
一方で、アメリカのエスタブリッシュメントが、アメリカの大統領にＮｏをつきつけたままである。
いまのところ、亀裂が入ったままである。
日本の東京の場合も、あんたの思うようにはさせないことは一致しているのだが、言葉が、分断などではなくて、圧倒的に、一方的に、都知事を支持している都民が言っているのだ。
アメリカの例でもそのままなのだが、どこかで収拾するなど考えにくい。あのデモは終るのか。あのエスタブリッシュメントへの攻撃は終りそうもない。
東京都の場合は、どこでどんな選挙があっても、あんたの思うようにはさせないが勢いを示しそうである。
どうしてこんな事態になったのだろうか。
アメリカの場合がわかりやすいのだが、アメリカの大統領は、私は、あなたが幸せだったら私も幸せなんだ。アメリカ全国民に対してだ。
こんなことを言ったような記憶がある。
問題は、これが演説のパフォーマンスだったかどうかである。
私は、アメリカの大統領は、以外と本気でそう思っているのではないかと感

じる。
本気でエスタブリッシュメントに無視されている人々を、あんたが幸せだったら私が幸せなんだと言いそうである。
ただ、あいつらは知らんと言いそうだが、大統領になったら、そんなことは言っていられない。
エスタブリッシュメントの人々は、残念だが、あなたが幸せだったらわたしも幸せだとは言わない気がする。
私見で申し訳ない。
さて、東京のあんたの思うようにはさせないはどうなのだろうか。
あの都知事は、あなたが幸せだったらわたしが幸せだと言いそうである。
今のところ言いそうである。
言った言わないよりも、言いそうであるということは、東京の人々を愛しているとイメージできることだから、ここがポイントなのだろう。
東京都知事はオレ達が決めると言っていたＮｏ１パーティの人々は、どうなのだろうか。
あなたが幸せだったらわたしが幸せだと言えるようだったら、東京都知事はオレ達が決めるとは言わないだろう。
私にはよくわからない。
東京都の選挙で、東京都知事はオレ達が決めると言っていたＮｏ１パーティの人々は、ことごとく負けて、もし衆議院か参議院の選挙があったらＮｏ１パーティーが勝ってしまうだろう現実はなんだろうか。
政党支持率を見てもそうである。
都会の生活者と地方の生活者で意識の差が大きいのだろうか。
そうではない。
単に候補者だろう。
当選したら自分が主権者であるかのように振舞いそうかどうかを見ているだけだ。
主権者はハナから決まっているのに、当選することが主権者になるかのように勘違いする人が多い。
主権者だから、オレ達が決めるになってしまう。
Ｎｏ１パーティにこれだけ失点が多いのに、なかなか交替できないのは、政

治家を志す人に、権力への階段を志す人が多いことなのだろう。
あるいは社会的地位を目指すか。
やはり政治家を目指す人が、単なるパーティーの数合わせなどではなくて、自分の心棒を確立している人でないと難しいのだろう。
やはり、政治家の中で、あなたが幸せだったらわたしが幸せだと言える雰囲気の人が少ないことは確かなのだろう。

○２０１７年夏都議会議員選挙

あんたの勝手にはさせない。この日本の流れはかなり強力のようだ。東京都議会議員の選挙でも、日本のＮｏ１パーティーは、このあんたの勝手にはさせないという流れに飲み込まれた。東京都でのＮｏ１ではなくなってしまった。
日本はちょっと変化が出てきている。
かなりながく、日本のＮｏ１であった政治パーティーが、東京都に限っては、その威光を失ってしまった。
今後、あんたの勝手にはさせない流れは、日本全国に拡大するのだろうか。興味深い。
主権者は日本のみんなだから、政治家であるということだけで自分が主権者であるかのような発言や態度をすることはよくない。
いくらなんでも、最近の政治家の皆さんの言動には、主権者から見たら、おかしいと思われてしまうだろう。
少し前までは、おかしいとは思っていても、行動に移すことができなかった。
さて日本の主権者は変わるのだろうか。
少なくとも、東京の主権者である生活者は変わったようだ。
そうこうしているうちに、内閣支持率が大きく低下してしまった。
大きく内閣支持率が低下しても受け皿がないので安心しているかもしれない。
どんな政治パーティが次をやるのか。
確かにそうだ。

しかし、フランスの例などを考えると、そうは言っておれないかもしれない。
既成の政治パーティーは一蹴された感がある。
主権者と権力者とは昔は同じだった。１９４５年まで同じだった国が多いかもしれない。
権力者が主権者であって、みんなは民で霧であった。存在がなかったのだ。
２０１７年の東京都議会議員選挙における東京の生活者とは大違いなのだ。
東京都議会議員選挙で負けた日本のＮｏ１パーティーのみなさんは、もしかしたら、まだ日本のみんなは霧であると思っていたかもしれない。
東京都知事はオレ達が決めると言い放っていたのだから。
主権者である東京都民はガッカリしただろう。

○研究界や学問界

私も一応研究界の人間であった。
学問界の人間である。
全ての研究の対象はマタニティとあかちゃんと子どもとお年寄りだった。
みんなそれぞれ、たとえば喘息になるのは子どもが多いとかになるので、アレルギーの研究者の学会で学習させてもらったりになる。
自分がいくつの学会に入っているのかわからないこともあった。
時々、私たちと視点が異なる人がいて、議論になることもあった。
異なる視点とは、私はあかちゃんに興味がある。子どもに、マタニティに、お年寄りに興味がある。
深く入るとメンドーなことが多いから入らない。
要するに、２０１４年の万能細胞の話しでは、できたかできなかったのかなどは、どうでもよいと思う人が少ないことなのだ。
私は高齢者に興味がある。
なにができるのか知りたいだけなのだ。
ところが、みなさんは、研究者として先端に出たいので、細かい、私にとってはどうでもよいことに終始してしまう。
人間の遺伝子の仕組みなど、まだ０・１％くらいしかわかっていないのだか

ら、何があっても驚かない。
驚いてくれと言われても困るのだが、驚いてもらいたい人がマスコミも含めて大勢いるのだ。
私はあかちゃんやお年寄りに興味がある。
多くの研究者は、それが先端であるかどうかが興味がある。
多分、多く学会があるが、今でもこの問題は、続いているだろう。
私のカンでは、もっと状況は私の視点からは離れているのではないかと思う。
最近の原発の状況を見ていると、私は、あかちゃんと子どもとマタニティとお年寄りに興味があると大声を出してみたところで、日本経済がＮｏ１になるための布石を打っているんだから余計なことは言うなになっていただろうと、つくづく思ってしまう。
そしてその布石が50基の原発になった。
研究界や学問界というのは、常にこういうふうになってしまう。
技術や技の先端を狙うからだ。
核爆弾だったら、一瞬にして10万人を殺傷するより１００万人を殺傷する研究がスゴイ研究である。
私は、マタニティとあかちゃんと子どもとお年寄りに興味があると大きな声を出しても、無視されてしまうだけなのだ。
権威ある何とか賞の存在も関係している。
やはり、どうあっても先端に出ないと研究者としての妙味がないと思ってしまうのも仕方がないところなのだろう。
そうかといって、あの賞は、若い研究者の励みになっているので、どっちの天秤が重いかよくわからない。
ただ、核兵器が世界で数万発あることを思うと、やはり、研究界学問界には、あなたが幸せだったらわたしが幸せだの人が少ないということがよくわかる。
人間の頭脳は優秀だから、できるからやりたいのではなくて、できるけどここまでにしておこうという、あなたが幸せだったらわたしが幸せだの姿勢が必要な時代に、とっくの昔に入っていると思うのだが。
ごく最近に、なんとかガスを使って空港で人が殺害された。

昔、同じガスを作って事件を起こしたことも、日本ではあった。
兵器では、もっといろいろな兵器が開発されたり使われたりしているのだろうが、私にはよくわからない。
どうしてこんなことになるのかである。
よく考えると、すべて権力者が絡んでいる。
ごく最近の空港の事件もだが、日本の事件でも、権力者ではないのだが、権力者になりたかった人がいたからだろう。
権力者とは、何事も正当化できる人のことだ。あんなガスをつくってはいけないでしょ？などの言葉が無にされてしまう人のことだ。
シリアだって同じである。
権力者と権力者になりたい人数人が、ゴチャゴチャになっている。
みんな自分は何でも正当化できると思っている。
やはり、世界が、あなたがし幸せだったらわたしが幸せだになっていくには、世界から権力者を少なくしていくことが、必須条件のようだ。
研究界学問界のことをゴチャゴチャ言っても、権力者の、自分は何でも正当化できるという言葉に、メチャクチャにされてしまう。
いまも核兵器をつくっている人もいるのだろう。
それにしても、恒久的権力者がハナからいないアメリカで、最初に核兵器が使われた現実を考えると、研究界学問界は、やはり先端争いから逃れられないのかもしれない。
私は、自己実現という思考が、アメリカヨーロッパをどれほど席巻しているかわからないのだが、アメリカの２発の核爆弾を思うとき、自己実現の思考を思う。
愛を通り越して最終的に人は自己実現を目指すのだ。
これだと、あなたが幸せだと私が幸せを目指した後に、自分の最終目標の自己実現である核兵器を実現させることになる。
私は知りたいのだ。
こんな思考が、アメリカヨーロッパの人のどの程度を占めているのだろうか。
愛は、なかなか先が長そうである。

○日本社会の序列

日本社会では、政治の界にも、研究学問の界にも、あなたが幸せだったら私が幸せだという概念が薄いことがわかった。日本だけではなくて、世界でも、あなたが幸せだったら私が幸せだという概念が薄い。

日本社会を覆っている新たな日本の序列はどうだろうか。

日本列島を覆っている新たな序列とは、偏差値とその後の社会での序列のことだ。

お役所でもキャリアと呼ばれたりすることだ。

しばらくマスコミを賑わしていた。

高級官僚から大学への天下り問題である。

多分、なんとか次官に偏差値を聞いたらスゴイ数字を言うだろう。

みんなそうだ。

それなのに、先が保証されていないことを、あの方たちは不満に思うだろう。

なにせ、日本で最高の偏差値を持っているのだから。

大学教授に天下るのは、序列が下がると思ってらっしゃるのだろうが、それでも仕方がない。

私たちとは考えていることが違うのだ。

経済の関係でも他の関係でも、みんな同じなのだろう。

税のことでも、序列があって、また天下りの年頃になると、同じようなことになるのだろう。

偏差値のシステムがすごいのだが、もう、日本の新しい序列は、しばらく動かせないだろう。

学生たちは、偏差値が高くなればそれだけ社会のリスペクトも大きくなるし収入も多いし、豊かになることも決まっていると思ってガンバっているのだ。

そもそもどうしてこんな序列をつくらないと困ったことになっていたのだろう。

多分、何々銀行頭取から息子さんの就職のことで困っています。

今は、一切ないだろう。

そういう意味では一理ある。
Ｎｏ１パーティーの幹事長の息子さんの就職もあっただろう。
そういう意味では、凄いことなんだが、ここで変革が終ってしまったのだろう。
悪習慣を防ぐためだけだったのだろう。
もっと、日本に必要な人材をもっと真摯に考えればよかった。
創造的か運転的か。
だけでもよかった。
偏差値だけでは、運転的な人の成績がよいに決まっている。
このままの日本では、船長ばかりになってしまう。
今日本に必要なのは、サンフランシスコの田舎風のおじさんが開発したスマホのような世界的なヒット商品である。
そういう創造的な人である。
残念だが、日本会社で、商品開発者が社長をやっている会社は聞いた事がない。
１９６０年ごろは、ソニーにしても松下にしても本田にしてもどこでもだが、社長が商品開発者だった。
当然である。
商品は、新しい生活のシナリオライターであり、会社は新しい生活のシナリオライターの養成所だからだ。
しかし、今は、ひょっとするとゼロかもしれない。
もう日本は難しい。

○集団には愛がないから
愛は、こころの器である。こころには、よろいも存在している。ここ20年くらいは、日本でもよろいが幅をきかせて愛が薄くなってきている。
韓国や中国でも、日本と同じように、受験戦争がものすごく、序列社会を壊すためには、変革が必要かもしれないと思ってしまう。
最近の、文部科学省と政治組織との戦いのようなことで、霞ヶ関の新しい序列社会が明らかになって、それはそれで好ましいことだ。

日本では、日本のみんなが主権者だから、みんなにわかるようになっていなければおかしい。
テレビを見ていると、霞ヶ関は政治組織を見ていて日本のみんなを見ていないのではないかと感じる。
政治組織は仲間を見ていて、選挙や支持率があるので、その度ごとに一時的にみんなの方を見ているかのようだ。
これで通用するとわかってからは、政治組織は、少々権力組織ぽくなってしまっている。
最近でも、国会議員であると、自分は権力者の１人であるかのように振舞ってしまう人も現れるようになっている。
集団には愛はない。
愛は人にしかない。
しかし、人のこころには、愛とよろいが共存している。
だいたい、政治パーティーの１員になってしまうと、政治パーティーには愛がないので、よろい的になっていって、個人もよろいが大きくなっていくことがフツウになる。
愛の大きい人が政治家をやることはその存在を賭けないと難しいだろう。
官僚の人などの国家公務員も、もちろん組織には愛がないので、よろいの社会の中で個人のよろいも大きくなって、個人の愛も薄くなるのがフツウだろう。
会社でも同じようなものだ。
学生時代に理想を持って愛に溢れた人であっても、一度会社に入るとそうはいかなくなる。
話しはかわるが、最近の東京都の都議会選挙の結果は、誰もが驚く結果だった。東京都に関しては、政治地図が大きく変わった。国政のＮｏ１パーティーが都ではＮｏ１になれなかったのだ。
直前の、国政レベルでの国会議員のおかしな発言がＮｏ１パーティーから次々と発せられて、直接的に都議会議員選挙に影響したことは確かである。
さすがに穏やかな裕福な一極目の生活者が多い東京都でも、これにはゴメンナサイをしたのだろう。
一極目の生活者が１・５極目の生活者になったのだ。

都議会議員選挙直前のＮｏ１パーティーの国会議員のおかしな発言の共通していることは、あなたが幸せだったらわたしが幸せだと思っている人が１人もいないことだ。
私は実態を知らないが、出ている情報からは、そう感じられる。
政治を志す人には２種類あるらしい。
もっと大きな権力を得るのに政治はチャンスが多いと思っている人と、あなたが幸せだったらわたしが幸せだと思っている人だ。
個人的な意見で申し訳ないが、政治を志す人に、もっと大きな権力やよろいを得るのに絶好だと思っている人が圧倒的に多いのではないかと思ってしまう。
こんな状態の日本の先行きははっきりしている。
日本の借金など減りはしないし日本が再度経済成長することもないし人口が増加することもない。
政治というのは、日本のみんなだけではなくて、世界のみんなが、あなたが幸せならば私が幸せという考えのもとに行動原理があることだ。
それが近代の政治である。
以前の政治は、権力者の政治だったから、覇権の政治と思えば間違いない。
80年前の世界大戦では、ドイツと日本に覇権の政治があった。政治が、あなたが幸せだったら私が幸せとはほど遠いものだった。
２０１７年のドイツでは、世界でもまれなあなたが幸せだったら私が幸せを貫く政治をやっている国のように見える。
ただ、徹底的に覇権の政治を行う権力者にみんなが従ったのだから、みんなの追従のエクスタシーには怖いものがある。
これはエクスタシーだから消えることはない。
ドイツの人たちは、自分自身の愛を多くしないと危ないことを承知しているのかもしれない。
一方の日本の場合は、ここ10年くらい、また覇権の政治に戻る風潮がある。
日本が世界の中で大きな存在感を持ちたいと思っている人がたくさんいるのだろう。もしかしたら１部の人だけかもしれない。よくわからない。
日本のみんなもあれほどの権力追従をしたのだから、追従のエクスタシーが大きい。

しかし、ドイツのみんなと日本のみんなの違いは、自分達の追従のエクスタシーを恥じている度合いが異なることだ。
ドイツのみんなは、あの収容所がある限り、自分達の追従のエクスタシーを恥じることになるのだが、日本のみんなには、そういうものがない。
だから、ここ10年くらいの日本の政治がまた覇権の政治に戻るかもしれないという風潮が生まれてしまう。
しかし、２０１７年夏近くになって、それは一転したように思える。
やはり日本のみんなは、自分たちが主権者であることをよく認識している。
単なる自分たちが代表として選んでいる人に、いかにも主権者であるかのような発言をされたり行動をされると機嫌が悪くなるのだ。
それでいい。
２０１７年10月になって、いきなり衆議院の総選挙になった。
どう考えても、政権パーティーが、今だったら勝てると思って解散をやった雰囲気である。
さて、もしかしたら生活者をあなどっていないだろうか。
日本の主権者をあなどっていないだろうか。
日本の生活者は、ただ票を計算するだけの存在ではなくなってきている。
特に２０１７年から変化している。
今日が公示日である。
選挙の結果がどうなるか。私は日本のみんながどういう選択をするのか楽しみである。
今日公示なのだが、日本の政治には、あなたが幸せだったらわたしが幸せだは全くないのだろう。
政治には愛はない。
ホントはそうではない。
みんなの下部としてみんなのために政治を志す人は、あなたが幸せだったらわたしが幸せだという信念を持っている人に限られることがベターではなくてベストではなくて欠かせないことだと思うのだが。
現実は全く異なっている。
今日は10月29日である。すでに選挙の結果は出ている。今だったら勝てるからと解散したＮｏ１パーティーの大勝だった。

都知事が急遽つくった新しい政党は、野党第１党にもなれなかった。都知事の人気におんぶした戦い方だったが、旧野党第１党から流れ込んだ候補者を選別して排除することもあると言った時点で、人気が萎んでしまった。
このことがＮｏ１パーティーを有利にさせた。
今回の解散総選挙にも、あなたが幸せだったらわたしが幸せという愛など微塵も感じるところがなかった。
特に都知事が率いる新しい政党での曖昧なコンセプトが、政権与党側なのか野党側なのか生活者が読みずらいところがあった。
そして排除という言葉が日本のみんなをしりごみさせた。
日本のみんなは、自分が主権者なのに、たとえ総理大臣であったり都知事であったりしても、あたかも主権者のような言葉使いには敏感に反応する。
一風の流れで、排除された人たちが集まってつくった新しい政党が、日本のみんなの共感を得たことだ。
いかにもウソがない印象で、みんなの下部になると言ったことも好印象だった。
日本のみんなは、少しはあなたが幸せだったらわたしが幸せを感じたかもしれない。
日本だけではないが、政治の世界は、机上の空論であっても大きな目標を提案するかパフォーマンスを駆使するかが手法として珍重される。
久々に、心棒のある政党かもしれないと、日本の人たちは少しは感じたかもしれない。

あなたが幸せならば私が幸せ

○それは愛のことだ

あなたが幸せならば私が幸せ。
それは愛のことだ。
愛は人が動く押しボタンなのだが、押しボタンはよろいにもあって、どちらかというとよろいのボタンが押されぱなしである。
こころは愛とよろいがシェアーしていて、20が愛で80がよろいである。
フツウの人では、なかなかあなたが幸せだったらわたしが幸せだという心境にはなれない。
もし、生きていく心情として、あなたが幸せだったらわたしが幸せを貫こうとするのだったら、こころの愛の大きさを少しでも大きくすることが大事だろう。
どうすれば愛が大きくなるかはなかなか難しいが、こころが愛とよろいでシェアーされているのだから、80もあるよろいを小さくできれば、結果的に愛が大きくなることになる。
よろいとは、生身の身体の外側に、自分の見た目の価値と思われることを着ていった結果のことである。
よろいがあるがゆえにたとえば、嫉妬や競争や金銭欲などなどの人間にふさわしくない行動になってしまう。
よろいとはこういうものだ。
人には、12のエクスタシーがある。それがすべてよろいである。それを少し抑えればよろいは小さくなる。
人のエクスタシーには次のものがある。
生殖のエクスタシー
狩りのエクスタシー
遊びのエクスタシー
チャンピオンのエクスタシー
競争のエクスタシー

権力のエクスタシー
追従のエクスタシー
儲けのエクスタシー
忙しのエクスタシー
豊かを維持するエクスタシー
存在のエクスタシー
人が人を襲うエクスタシー
これだけのエクスタシーがあるのだから、よろいを少し少なくすることはさして難しくはないだろう。
自分のことを思い返してみても、どれかに深入りしていることが多い。女性であっても、政治家になると権力のエクスタシーに侵されることは、最近の政治家の不祥事を見ているとわかりやすい。
誰でもが、このエクスタシーに侵されている。だからこころの愛はこのエクスタシーに攻められて小さくなっている。
あなたが幸せならわたしも幸せは、これだけのエクスタシーを抑えられる人だけが行動できることのようだ。
２０１７年11月末、横綱による暴力事件で相撲界だけではなくて日本中が騒がしい。今朝暴力を奮った横綱の親方が引退届けを提出したのだそうだ。
こういう決着のつけ方になった。
個人的な感想だが、大相撲を好んでいることでは、みなさん変わりはないようだ。
ただ、これは愛なのかどうかである。
愛は、人が動く押しボタンで、あなたの絶対的な味方ですであって、あなたが幸せだったらわたしが幸せだという行動をすることだ。
今回の暴力行為は、人が人を襲うエクスタシーが発揮されてしまったことのように思える。エクスタシーだ。よろいである。プライドもあったかもしれない。
残念だが、そうだ。
ここで、このよろいを、まあまあという相撲界をまとめるやり方で収めたら、今後も、このような暴力事件は後を絶たないだろう。
おかしな話しだが、相撲界には、よろいが充満している。

相撲界だけではなくて格闘技の世界では、叱咤激励も含まれるのだが、おしおきの風習が抜けない。
おしおきは時に暴力に発展する。
一線を越えるとき、それは、人が人を襲うエクスタシーになる。人が人を襲うエクスタシーは誰にでもあるので、誰でもが一線を越える可能性を持っている。
今回の暴力事件は、相撲が好きな人の集まりの中で起こったことなのだが、みなさんに愛が多かったかどうかでは、残念ながらＮｏである。
愛が大きかったら、暴力などに発展しない。
今回の暴力問題をややこしくしているのは、私の個人的な意見だが、大相撲界の権力問題のように感じる。
ヒエラルキーがしっかりし過ぎているのだ。
大昔から続いている伝統あるスポーツというか行事なので、ヒエラルキーがしっかりしているのだろう。
しかし、仕方がないと言っていてはいけないのだろう。
確かに、日本のすべての会社にだってヒエラルキーがあって、権力者はいないのだが、権力者ぽい人が多い。
日本では、様々な分野で、権力者とみんなをめぐって綱引きが続いている。
経済もそうだ。供給経済というのは、権力者がいて権力者のための経済システムを考えて実行したものだ。資本とか社会とかコンセプトは異なるのだが、権力者の都合の良い経済を研究したことは事実なのだ。
だから、どのように変革しようが根がまずいのだから意味は薄い。
今でも多くの人が研究をしているのだが、私にはよくわからない。すべては歴史になったと思うのだが。
社会は人のこころが集まったものだ。権力者の１人のこころではない。
ここがどうにもならない。
そもそも権力者が生まれる前の人々は、サルやライオンと同じだった。生殖能力の強いものがボスだった。生き残りやすい強い遺伝子を持つことがボスだった。
ボスと権力者は異なる。
権力者は何事も自分の都合の良いように正当化できる人のことだ。

戦争を仕掛けてもそれを正当化できる人が権力者だ。
２０１７年の世界では、もう数が少ない。数人しかいないだろう。
供給経済というのは、そういう人が命じてつくった経済システムなのだ。
社会は人のこころの集まったものだから、ハナから無意味なのだ。
２０１７年の経済社会は、生活者と商品が主役である。
生活者は、その国の主権者であって経済価値を自分で決めて自由である人のことだ。
２０１７年の世界では、主要国のほとんどは、生活者である。
生活者が大多数だから、生活者のための経済システムになることが望ましい。
しかし残念なことに、この市場経済システムをキチンと研究することはあまり進んでいるとは思わない。
ただ、経済は生き物だから、ヘンに論理建てない方がいいのかもしれない。
最近の経済では、サンフランシスコの田舎風のおじさんがスマホを開発したのだが、もっともよく市場経済社会を理解していた人だと思う。
それに較べて、原発や新幹線や潜水艦などを商品にしょうとした人たちがいることが悲しくなってしまう。
生活者が誰も買わないものばかりに一生懸命になることが悲しい。
いまだ供給経済信奉者が多いのだ。
経済だけではない。
権力者とみんなを巡っての綱引きである。
私は教育という言葉を使わないが、教育のことも、供給経済と市場経済の話しと似ている。
経済社会は活きているので、自動的に、みんなの経済システムができてしまうのだが、教育システムはそうはいかない。
権力者の意向でシステムがつくりやすいのだ。
そして権力者を称賛する道に導くことも可能である。
現実として、人間社会ができて以来、必ずといっていいほどに、そこには、権力者の意向に沿った教育システムが存在した。例外などない。
現在の日本の教育システムも同じである。
１９４５年の世界大戦のときに、それまでの教育システムが崩壊したのだ

が、新しい主権者は日本のみんなだったのに、まだ日本のみんなが主権者としての自覚をしっかりさせない間に、戦後の教育システムが発足している。それは、教育界の権力者ぽい人たちによってなされた。
そして、１９７０年代の偏差値の導入によって、完成形を迎える。
確かに、若者を一点に集中させる流れをつくったことによって、若者のパワーを社会の成長にプラスになる方向へ向かわせたことは確かである。
しかし、一方で、あまりにも一点集中で、たとえば、日本をオートバイの国であるかのような貢献をした人のような育ち方はできなくなってしまった。
偏差値はあくまで机上の空論だからだ。リアルではない。
残念だが、もう日本からは、すごい人材が輩出しないだろう。
若者のすごいパワーがある時期を、机上の空論に費やしてしまっているからだ。
東京に大学をつくることを抑制しようとする流れがあるようだ。
大学を地方に持っていかないと、地方はどんどん萎んでいってしまう。
頭で考えるとそのとおりのように思う。
多分とんでもなく考える方向が違うのだと思う。
私のおふくろは92歳で５年前に亡くなった。大分の半島の先に村があった。
今は道路があるらしいが、昔は連絡船がないと行けない所だった。
もしかしたら廃村になる。
小学校もあった。医者もいた。
なぜだ。
平家が滅んで９００年だが、そのときから村である。９００年も平和に暮して小学校も医者もいる村になったのに、なぜ２０１７年に廃村かもしれない事態になるのか。
１９４５年に村から男はほぼ全員戦争に行って亡くなったが、それでも村は生き残って人口を増やした。
しかし、偏差値は、戦争以上に、この村を襲った。
高校に行って大学に行くことが人間の価値が高いように錯覚した。
村にいては収入は少ないし高校もない。
確かに、半農半漁である。収入は少ないが、人間にとってもっとも幸福な明日食べることに思案をしないことでは、これ以上の場所はないと思える。

魚も米や野菜もすべて自給できるのだ。
だから９００年も平和に暮した。
人間の価値とはなんなのか。
人間の幸福観とはなんなのか。
国家繁栄の施策だったに違いない。
競争に強い人材を育成しようとしたのだ。
しかし逆だった。
日本に地方から人口が減少する。
国家で大事なことは人口を減少させないことだ。
アメリカがいろいろあっても国家に勢いがあるのは、移民によって人口が減少しないからだ。
日本は難しい。いずれ中国も急激な人口減少に陥る。
中国の地方が崩壊するだろう。
そして豊かになるから、豊かを維持するエクスタシーに陥ってあかちゃんを産まなくなるのだ。
中国は日本の後を追うことになる。
なにが幸せなのかよく考えないといけない。
国家の繁栄を目指すことの施策が、決して人の幸せになっていないかもしれないのだ。
もう自分で守らないといけない。
あなたが幸せだったら私が幸せだと思えるような人になることが自分の幸せだと思うといいのだが。
そんな人が増えるといいのだが。

○人が動く押しボタン

愛は、あなたが幸せだったらわたしが幸せだと表現することだが、ベツの見方だと、人が動く押しボタンである。
人が動くことには２つの動機がある。
いずれもこころの動きである。
こころはよろいと愛でシェアーされている。

世界の誰でも同じである。
違うのは、よろいと愛のシェアーの割合だけである。
１人として同じ割合の人はいない。
一般的には、愛が20近辺でよろいが80近辺である。
人が動く動機は、こころがよろいと愛で占められているので、よろいで動くか愛で動くかのどちらかである。
一般的には、こころのよろいは80もあるので、人の動きは、ほとんどが、よろいによるものである。
同期の友人が先に課長になったら嫉妬が芽生えることがフツウの人である。
幼稚園の運動会でさえ、よっちゃんに勝ちたいがあまり半歩スタートラインを踏んで走りはじめる。
人の動きは、ほとんどがよろいによるものである。
毎日毎日事件が起きるのだが、そのすべては、よろいが引き起こしているものである。
生身の人にはよろいはないので、嫉妬もなければ競争のエクスタシーもなければ儲けのエクスタシーもない。すべては、生身の外側に張り付いたよろいによるものである。
フツウの人の20％の愛は何をしているのだろうか。
私は、まだ40やそこいらのときに、母親が心臓を患って手術を受けた。パイプが埋め込まれた。
私は東京で暮していて母親は下関で暮していた。
私は手術に間に合わなくて、母親はＩＣＵにいた。
先生が血圧が上がらないと言っていた。
こん睡状態だった。
先生と一緒に母親のベッドに向かった。
私が近づくと、母親は目を開けて私を見た。
その瞬間に、母親の血圧が一気に上昇し脈拍も高くなった。
10人くらい家族の関係者もいたのだが、みなさん、ビックリして声を上げた。
私は、この時に、私は母親に強く愛されていたと感じた。
母親は、その後30年92歳まで元気だった。

私が強く人が動く押しボタンを感じたことがある。
若かった頃だ。私は、八ヶ岳赤岳に土曜日の夜行日帰りで登っていた。
私のストレス解消策だった。
３年前に同じコースを登ってみた。
途中の行者小屋まで行って泊まった。翌日大雨で諦めて下山したが、これを日帰りで県界尾根を下っていたのだからすごく強かったのだろう。
５月の連休の八ヶ岳だった。
私はすぐに失敗したと思った。
アイゼンもピッケルも持っていなかった。
今のようにスマホもなかった。
すごい雪だったのだ。
苦しんでも庭のようなものだから赤岳には登れた。
そして県界尾根を下っているときに、私は、雪の中を横断していて滑らせてしまった。
アッという間に草木のない場所から草木のある場所まで滑ったというより滑落した。
途中に岩がなかったのが幸いだった。
私は、木の茂みのなかで止まった。
私は、身体を調べたが何もなかった。どこも傷めていない。ザックもそのままだった。
私は元の場所に戻ろうと思った。
１歩上に向かおうとしたのだが、右足を引き抜いているときに左足が腰まではまってしまった。
何時間かかっても元の場所には戻れないとわかって、一気にパニックになった。
このままでは、雪にはまって夜になって凍死してしまう。
私はパニックの中でどうしても電話したい人を想っていた。どうしても電話したい。
私は、タバコを当時は吸っていた。
高鳴る動悸を鎮めないといけない。
私は、タバコを胸のポケットから取り出して吸った。

すごいアイデアが降りてきた。
私はタバコをしまって、一気に雪に中に飛び込んだ。上に行くのではなくて下に向かったのだ。
深い新雪を平泳ぎで泳いだ。どのくらいか泳いで立ったとき、30センチしかなかった。
私は後を振り返った。
あのまま元に帰るという山の鉄則を守っていたらとんでもないことになっていただろう。
それからも誰も入らない沢なので危ない場面があった。
しかし、私は、清里で電話をした。
留守電に助けてくれてありがとうしか言えなかった。
私は、ここから、愛は人が動く押しボタンだと言っている。
愛はすごいチカラがある。

○あなたの絶対的な味方
私は、愛は、あなたが幸せだったら私が幸せという態度をすることと、人が動く押しボタンと、あなたの絶対的な味方だという態度の３つでわかると思っている。
私は10年くらい前になってやっとあなたの絶対的な味方だと言えるようになった。
かなり多くの人に言っている。
それを裏切ったことはない。
私は、保育園の園長を３年やったのだが、そのときに気がついた。
子ども達は、新米園長に優しくなかった。
私は、研究所のマネージャーもやっていて、しょっちゅう争っていた。
保育園に入ると子ども達は私のそばにはやってこないで逃げるのだ。
私は大人の競争的業務に慣れきっていた。
そして背広で保育園に入っていた。
私は大きな失意を感じた。
しばらくして、私は、白のトレーニングウエアーにした。ブランド物だっ

た。
私を変えないといけないと思ったのだが、カタチから変えないと難しいと思った。
私は心配だった。これでも子ども達が知らん顔したらどうしようである。
ところが、初日から、子ども達は、私を仲間に入れてくれた。子ども達はなんでもないことだったのだが、スタッフが驚いた。
こうなるとは思ってもみなかったのだろう。
私は、研究所の仕事と兼務していたのだが、子どもたちと仲良くなることを代償に、大人の間でのコミュニケーションがうまくいかなくなった。
私は、白のトレーニングウエアーとエプロンで研究所の会議に出席して議論をした。
すごく違和感があるのだ。
ある時など、先輩の監査役に、何をやってるんだと、エプロンをちぎれそうになるくらいに床に叩きつけらえた。私が床に転びそうになった。
これはすごいことなのだ。
私は、日本はあかちゃんが生まれなくなると思った。
あかちゃんを大事にしない社会は滅びる。古代のギリシアやローマも同じだった。
社会は、あかちゃんが生まれなくなって人口減少になって滅びる。例外はない。
世界の中心で存在を示したいかもしれないが、そうすればするほどあかちゃんから離れていく。
社会があかちゃんから離れるとお母さんがその社会から離れる。
私のこの経験は、25年も前のことだ。
そして２０１８年、日本のあかちゃんは１００万人を切った。このままあかちゃんの生まれる数は減ることになる。もう人口減少が顕著になった。
私は自分の立場を曖昧にはできなくなった。
私は、日本社会の競争覇権的風習に反逆してあかちゃんやお年寄りに心情的に沿って暮らすのか、決断しないといけなかった。
私の決断は、当然のことながら、保育園の子どもたちと仲間として暮らすことだ。

私は会社に勤務した時間を、心情的にあかちゃんとお年寄りに寄り沿ってきた。今でもそうだ。
私は、競争覇権的な社会に警鐘を鳴らし続けている。私の勤務した会社は、数少ない競争覇権的会社ではない会社になっている。株価も高い立派な会社である。
あかちゃんとお年寄りに心情的に近く暮らさないと、その社会は滅びに向かってしまうというその時の決断が、今も私の中で続いている。
私が現役を退いて13年くらい経つのだが、いまでも、保育園の運営の仕事をしているようだ。
確かに保育園の運営の仕事は利益率はよくない。
しかし、かけ算の仕事ではなくて足し算の仕事である。
仕事は、たとえば、金型でプラスチックをつくるようなかけ算の仕事は、当たれば儲かるのだが、当たらなければ設備も含めて大きな損失が発生する。
保育園の仕事は、かけ算ではなくて足し算である。
足し算の仕事は人材が財産になる。
育児のための用品を開発生産販売するのだったら、子どもと暮らすことも平気だし世の中のお母さんたちに確かな情報をお伝え出来ないといけないと当時は思ったし今もそうだ。
私は現在の会社を知らないが、多分、私のこのような考えは、会社の根にあって、私が大きな影響を受けたのだろうと思う。
この会社の社是は。愛を生むは愛のみである。
日本ではあかちゃんは１００万人しか生まれなくなったが、世界では５億人のあかちゃんが生まれている。
もう日本にこだわる必要はない。
世界のあかちゃんが自分で育つ手助けができればいいのではないかと思う。
こんな会社をあかちゃんは見捨てない。
私のこんな考えが確立したのは、保育園の園長を３年させていただいたからだ。
私は、子どもたちの絶対的味方だとこころに決めていたし、それは今も変わらない。
あかちゃんは、私を裏切ることが１００％ないので、私はすごく安心できる

のだ。絶対的な味方と言い続けても安心なのだ。

愛を大きくするには

〇愛を大きくする

こころは愛とよろいがシェアーしている。

ブッダとキリストとムハンマドは愛が80によろいが20なのだが、フツウの人は、愛が20によろいが80である。

私は、多分、愛が21はある。理由は私はよろいが少ないからだ。昨年５月からの悪性リンパ腫ＳＴ４の治療を続けて今日は２０１８年１月23日だが、いまのところガンは消えているらしい。身体のリハビリをやっている。まだ治療を開始す前の元気なところまで返っていない。

しかし、私は、ガンになって、私の愛はさらに大きくなったと言い切れる。

私は、５月８日にやっとの思いで病院の階段を上った。私は、これでわからないからと帰されたら、今日で終わると感じていた。

私の左顔面が痙攣して初診の先生は、車椅子に運んでベットに寝かされた。

私はＭＲＩの診察機械まで連れていかれた。

はっきり覚えていない。

息子が、今お父さんがいなくなったらオレは辛いと言ったことが諦めていた私を奮い立たせた。

先生もなにもわからなかったらしく、ＩＣＵに電話して２人の先生を呼んだ。

私の顔を見るなり、１００－７はいくつですかと聞いた。

私は答えられなかった。

計算していたのだが何が何やらわからなかった。

わかりませんかと聞かれて、ええと答えた。

私はその場で車椅子でＩＣＵに運ばれた。

そして３日私はＩＣＵにいてありとあらゆる検査機械で検査を受けた。

何かわからない病気で死ぬのはイヤでしょ？

先生に言われた。

そして、３日目に、悪性リンパ腫でＳＴ４だと宣告された。

私は、絶望感に襲われた。
しかし、先生２人は、即右肩の静脈から抗がん剤を一気に入れた。時間がなかったのだ。
私は諦めていたのに、先生２人は諦めていなかった。
私は、三途の川から引き戻された。とりあえず。
この話を書くと、私はなみだが溢れてしまう。
親しい人に何があったか話すときも、私は、なみだを溢れさせずに話すことができない。
なぜこの人たちはこんなに、わけのわからない老人のために必死になるのかわからないのだ。
今日は２０１８年１月23日だ。私はガンが消えて34日になる。身体はリハビリ中である。
入院中の夜中に、起きて！と看護師が飛んできて起こされたことも何度かある。
酸素吸収量が少なくなっていたのだ。
息をしていないのではないかと思われた。
私がそこで息をしていなくてもなんでもないのに、飛んでくるのだ。
私は、自分が愛が大きな人間だと思っていたのだが、先生と看護師さんにはかなわないことを実感した。
私は、ガンになって、自分がギリギリになって、愛を知ったのだと思う。それは、リアルなものだ。
それまでの私は、保育園の園長をやらせていただいて愛に目覚めた。愛が何かを理解した。
しかし、ガンになってはじめて、私は、愛をリアルに受け止めることができた。
保育園の時と同じだが、今回のガンの治療では、私が心身ともにギリギリであったことが大きい。
私は、愛を感じることに適していた。こういう言い方はおかしいが。
私の今回のガンの治療は、私の愛を大きくすることになった。確かである。
しかし、フツウの状態では、なかなか愛を高めることは難しい。
それでは、他にはどんなことが考えられるのだろうか。

私が最も愛が大きくなることを仕事を通じて実感したことは、出産である。
私はあかちゃんの研究を仕事の一部にしていたので、多くのマタニティや出産後のお母さんに会っていた。
そしてあかちゃんの出産にも立ち会っていた。
立ち会った回数は３回である。
私はいつも感じていたのは、あかちゃんが生まれてお母さんは、他のことへの興味が薄れるのではないかと思うくらいに、生まれたあかちゃんのことしか考えてないことだ。
あたりまえだと言えばそれまでだが、圧倒的にそれは言い切れるのだ。
あかちゃんが生まれるまでは、大人のよろいが厚くなっていて、たとえば、出産時の自分の対応を自分らしくと気にしていたのだが、あかちゃんが生まれると、もうそんな自分のことはどうでもよくなる。
なりふりかまわなくなると言ってもいいかもしれない。私の言い方では、あかちゃんが生まれると、よろいが少なくなるのだ。
こころは、愛とよろいでシェアーされているので、よろいが薄くなることは愛が大きくなることになる。
私の実感として、お母さんは、あかちゃんが生まれると一気によろいが少なくなって愛が大きくなる。
こんな奥さんを男はなかなか理解しようとしない。
時には、あかちゃんと奥さんを奪い合ったりする。自分勝手なのだ。
しかし、お母さんには、そんな男がバカバカしく見えてしまう。愛が大きくよろいが薄くなっているのだ。
これは多分例外がない。
時々、お母さんがあかちゃんをいじめることがある。最悪のケースに陥る場合もある。
しかし、ほとんどの場合、出産後少し時間が経過して、あかちゃんの夜泣きのことがストレスになったりする。
あかちゃんは大昔の人間の夜行性の習性を残していて、夜行性である。大人の昼行性とはアンマッチである。しかし、いずれ５か月くらいから朝の日を多く浴びていると次第に昼行性になる。少しのガマンができないのだろうか。

少しあかちゃんのことを研究してくれると最悪の事態は少しは防げると思う。
時々、出産直後にあかちゃんを産み捨てたりするケースがある。きわめてマレなのだが、残念だが、ある。
すごく残念なのだが、マタニティの時によろいが薄くなる出来事が少なかったのだ。
誰かに絶対的な味方だと言われない限り、グッドなマタニティ生活を送れない。もしあかちゃんの父親が絶対的な味方だと言ってくれなくても、自分のお母さんでもお父さんでもかまわない。
マタニティの時によろいを薄くしないとあかちゃんを安心して産むことは難しい。
マタニティは苦しい立場に陥ることがある。
仕事をしていると、会社から戦力を疑われたりする。
よほどの意志の強さがないと苦しい。
自分の意志だけではどうにもならないほどあかちゃんが生まれることは事が大きい。
どうしても絶対的な味方だと言ってくれる人が必要なのだ。
私は保育園の園長を３年やらせていただいた。
私はフツウの人と同じだった。
自分の地位向上を希望していた。
おかしなことなのだが、それと同じくらいに、企業研究に意欲があった。こちらは、私の損得の問題ではない。
しかし、３年間園長をやらせていただいて、私は一気に人間が変わった。
私はあかちゃんを絶対的な味方だと言ってしまうようになった。
私はあかちゃんにそっぽを向かれていたのだが、意を決して、白のスポーツウエアーに着替えた。上にエプロンである。
私は研究所のマネージャーも兼務していたので、黒っぽい服装だった。
子どもたちは黒が嫌いだと気がついた。
子どもたちは、まだ視覚が完全ではないのだ。遠近がはっきりしないし色がまだ完全に見えていないので黒が見え過ぎてしまうのだ。
私の黒っぽい服装は見え過ぎて怖いのだ。

私は一気に白のトレーニングウエアーにした。
子どもたちに好評だった。みんな私に近づいてくれた。
こんなことが続いて、私は、子どもたちの絶対的味方だと言えるようになった。
私のこころの愛は一気に大きくなった。
私は子どもたちにすごく感謝している。
このように、人のこころの愛は、大きくすることができる。

〇よろいを少なくする

こころは愛とよろいがシェアーしている。
愛を大きくする道は、よろいを小さくすることだ。よろいを少なくすると、自動的にこころの愛は大きくなる。
愛は、あなたが幸せだったらわたしが幸せだという行動をする。わたしはあなたの絶対的な味方ですという態度をする。愛は人が動く押しボタンである。
愛はこのようになっている。
一方よろいは、生身の身体の外側に、自分が他者に対して誇りたいよろいを着ることだ。
卒業証書などを大事にする。
履歴書はよろいを表現するものだ。人は生身ではなくて人を覆っているよろいで人を判断する。
幼いころから人は多くのよろいを着ることを強いられる。女の子だからピアノくらいやっておかないとになる。
偏差値なども典型的なよろいである。
よろいの価値については、ほぼ日本のすべての人が認めているし目指している。
よろいが厚い方が人間としての価値が高いと思っている。そして、よろいを厚くすることには大きな投資が必要だと考えている。
こんな状況では、あかちゃんが多く生まれることなど考えられない。
このよろいの価値観の高さが、さまざまな人間としてのマイナスの行動を呼

んでしまう。
幼稚園の運動会で、すでにして、足を１歩前に出してスタートする。フライングなど当たり前なのだ。
あんた１番になってよ？
お母さんの声が子どものよろいを生む。
もう取り返しがきかない。
偏差値の価値を言われると、ついカンニングの技を探してしまう。
よろいがなかったら、すべてこんなことはなくなるのだ。
よろいは、私は全くいいことはないと言っているのだが、日本の皆さんのフツウの考えでは、もっとよろいが足りないという考えである。
なかなか難しい。
私は、よろいを厚くすることを目指すからいけないのだと言ってしまう。その過程で、どんどんよろいの悪さを発揮してしまう。
私は研究者でもあるのだが、研究成果は論文の多さや論文の内容で決まることが多い。
論文をコピーしてあたかも自分が作成したかのようにふるまうこともある。
あるいは、研究内容を修正してしまうことだってある。
どうしても、成果がほしいからだ。
私の言い方だとよろいを欲しがるということになる。
研究者でエラクなるには、多くの論文が必要なのだが、研究者によっては、数だけ増やそうとヤッキになることもあって醜い。
よろいを厚くする過程で、フツウは、どんどん悪くなる。
よく考えてみると、なにもお墨付きがなくても、素晴らしい人は素晴らしい。
報道のテレビを見ていても、コメンテーターの肩書が表示されている。
視聴者が、この人のバックグラウンドを知りたいと思うからだが、そこで使われるのはよろいである。
日本では、よろいが立派であることが重要であり、よろいを観て、その人の生身を判断する。
私の言うように、生身の人を判断すればいいんじゃないかと言っても、圧倒的多数で跳ね除けられる。

こんな状態では、よろいの基になるようなことは少なくならない。
依然としてよろいをたくさん着ることの競争に歯止めがかからない。
世の中の事件のすべてはよろいから発生している。
生身の人は、あかちゃんと同じである。こころは愛とよろいでシェアーしているが、あかちゃんはよろいがゼロなので愛が１００ということになる。
愛が１００の人に事件などあり得ない。
あかちゃんは事件はない。
すべての事件はよろいが根になっているのだ。
愛はなかなかわかりにくい。
自分では、あなたが幸せだったら私が幸せだと言えるからわかりやすい。
しかし、他者がどんな人であるのかは判別しにくい。
よろいがあって愛ある人を演じることは可能で、事実多くの人が仮面をかぶっているだろう。
他者の愛はなかなかわかりずらい。
しかし、他者のよろいは愛よりは判断しやすい。
確かに、自分によろいがあれば、よろいを認識しなければ、もしかして、他者のよろいを見分けることが難しいかもしれない。
ただ一般的には、嫉妬心の大きい人や競争心の大きい人がよろいが厚い。偏差値を常に気にする。
どこどこ大学を前面に出す。
わかりやすいのだが、もし自分もよろいの人だったら見逃がすかもしれない。
愛を大きくしようと思ったら、自分の嫉妬心を抑えることだし競争心を抑えることだ。人には、多くのエクスタシーがある。いずれも必要だから人に備わったものだが、今ではかえってマイナスになっているエクスタシーもある。
生殖の、狩りの、遊びの、チャンピオンの、競争の、権力の、追従の、儲けの、忙しの、豊かを維持する、存在のエクスタシーだ。
遊びのエクスタシーでは賭け事をはじめたら止めることができない人も現れてしまう。
儲けのエクスタシーは、なんでもお金に変えないと価値を判断できない。

もっともっとが常習である。
このエクスタシーはすべての人が共通に持っているので、だれでもがエクスタシーの虜になってしまう可能性がある。
エクスタシーのすべてはよろいなので、これだけものエクスタシーがあると人はよろいの誘惑を阻止することは難しくなる。
チャンピオンのエクスタシーは、スポーツでも学問でも芸術でも芸能でも、その道のチャンピオンを目指す。すべての人のこころの中にある。
どこからきているのか。
もともと人には身体に武器がないから捕食される生き物だった。だから夜行性の生き物だった。
人にはこころがあるから、その恐怖とすくみと悔しさは、ずっと人の身体に残っている。
２０１８年でも人は時によって卑屈になってしまう。
今はいないが、80年前以前には、世界制覇を夢見た権力者がたくさんいた。多くの人を追従させた権力者であっても、時として不安になって卑屈になる。
それは人間である証である。
豹などは、自分を卑下することなどない。自分を卑下することもないが自分を権力者だと思うこともない。卑下することはこころがあるからだ。
人間にしかこころはないから、チャンピオンのエクスタシーに陥るのも人間しかいない。
エクスタシーはすべてよろいであり、どのエクスタシーでもいいから少し抑えられると好ましい。
私もエクスタシーを抑えることで愛を大きくしたいと思っている。
私は中学時代、廊下に貼り出された成績のランキングが上に行くことが楽しかった。１００くらいから10くらいまで上がった。楽しかった。しかしチャンピオンのエクスタシーだった。競争のエクスタシーでもあった。
その後偏差値の時代に入って私がハマった競争のエクスタシーに、ほぼすべての若者がハマってしまうことになった。
遊びのエクスタシーは、私は半年くらいパチンコに凝ったことがある。私は仕事に凝ってしまってパチンコよりおもしろいので止めてしまった。

私には、仕事が遊びのエクスタシーだった。それはずっとである。
遊びのエクスタシーにはプラスとマイナスがある。ギャンブルに凝ってしまうことがマイナスで多くの人がハマっている。
プラスの遊びのエクスタシーは私のように仕事がおもしろくなってしまうことだ。
仕事でも、社会的にみんなの助けになる仕事だと好ましい。仕事を遊びのエクスタシーのプラスにしていると、儲けのエクスタシーに陥ることが多い。儲けが多ければ何でもいいのだ。この果ては詐欺になる。だから仕事が遊びのエクスタシーのプラスというわけにはいかない。
私の場合は、仕事は世界のあかちゃんだったので俄然おもしろくて楽しかった。典型的な遊びのエクスタシーのプラスだった。
このように、私のように、もし遊びのエクスタシーがパチンコから仕事に移らなかったら、ヤバイことになっていた可能性もある。
私は、権力のエクスタシーに陥る可能性もあったのだが、２つの出来事がそれを抑えた。
１つは、「私のことを名前で呼んでください」と言ったオーナー社長と一緒に働いていた。
これでもう権力のエクスタシーは消えてしまう。
２つ目は、私は保育園の園長をさせていただいた。
私は、自分のことを園長と呼ばせなかった。スタッフのこともさんだった。スタッフからはクレームもあった。お母さんとの関係性で、先生と呼んでほしかった。それがフツウである。
私は、ガンとして聞かなかった。
私の権力のエクスタシーはまったく意味をなさなかった。
フツウは、課長になったら急に言葉使いが違ってきたりすることがフツウである。
みんなよろいなのだ。
課長になったらフツウは愛が少なくなる。
会社ではエラクなったらみんな愛が少なくなる。
わたしを名前で呼んで欲しいといった社長など、すごくマレなのだ。
私はおかげでよろいが少ない。

もともと私はよろいが少ない。
私は現在悪性リンパ腫ＳＴ４の治療が終わって経過観察中である。
いまのところ三途の川から引き戻されて、ここに座ってろと言われて経過観察中である。
私は座っていられずにリハビリに励んだ。そして毎日ランニングをして、それが過ぎて、腰痛狭窄神経疼痛症になって右腰右脚が痛くて、座っていることしかできなくなった。
座っていろと言われたので座っていればよかった。
しかし、これはよろいではない。
私は、山に行きたいのだ。私はもっと多くの文章を描きたい。
焦ったのだ。よろいではない。
今日は２月17日だが、右腰右脚が痛くなって動けなくなって19日である。
右腰と右脚の痛みは薄れてきた。
私のコンセプトは挑戦とクリエイティブだから、椅子に座っていろと言われても、じっとしていることはできない。
私個人の現在のよろいの状態は、ガンになる以前よりも更によろいが薄くなった。
私は三途の川から連れ戻されたのだ。
もうよろいがあっても使いようがない。無意味である。ありのままにこれからを生きるしかない。
以前にあった少しカッコつけるところもなくなった。
こころは愛とよろいがシェアーしているから、私の愛はさらに大きくなった。
それは間違いない。自分で感じている。
私は、ガンの治療を始める前よりも、あなたが幸せだったら私が幸せだと言えるようになった。
それは間違いない。
私は愛が大きくなったことは間違いない。
私の現在は、ガンの経過観察中であるが腸ヘルニアも抱えていて腰椎狭窄神経線維炎症に襲われて、次々に病気に襲われている。
フツウだと、あなたのことなど考えられないのだろう。ここまで追い込まれ

ると、両極端になるのかもしれない。
ブッダのようになるか恨みになるか。
私はブッダのようになった。
ブッダの愛は80によろいが20しかない。
私の今は、愛が22くらいだろうか。よろいが78だ。
これでもすごく生きやすい。
確かに右腰と右脚が痛いから辛い。調理をしているときでも痛くて唸る時がある。
それでも、こころは平静である。
なにも悔いることはない。

○愛が**20**よろいが**80**
あなたが幸せだったら私が幸せ。
もし日本のみんながこう言ったら日本は事件もなく静かに毎日を過ごせる。
簡単なことのよう思える。
簡単なことなのだ。
私は簡単にできる１人になれる。
間違いない。
そうかといって、私は、私のような人を増やすことができない。
そこがブッダやキリストやムハンマドとは違うところだ。
空海だって、日本全国を回って、あなたが幸せだったら私が幸せだを実行した。
みんなすごい人だ。
そんなすごい人がいるのに、日本社会では、あなたが幸せだったら私が幸せとはほど遠い社会になっている。
どちらかというと、他者の幸せを願うよりも自分の幸せを望む人が圧倒的に多いからだ。
私は、そういう意味では、たいした人間ではないのだろう。
ただ、私は、あなたたちという多くの人を対象とすることはできないが、個では、あなたが幸せだったら私が幸せだになれる。

冬のオリンピックが昨日で終わった。次はパラリンピックだ。
オリンピックはおもしろかった。
しかしオリンピックが、あなたが幸せだったら私が幸せだとは言わないことに、終わって気がついた。
しかし、オリンピックは、あなたが幸せだったら私が幸せだと言わないといけない。
そうでなかったらオリンピックはただのイベントになってしまう。
イベントは、おもしろかったら存在するがおもしろくなくなったら消えてしまう。
今の状態は、オリンピックは大型イベントだろう。
なぜオリンピックがあなたが幸せだったら私が幸せとメッセージしてないのだろう。
圧倒的にオリンピックにはよろいが溢れているからだ。
メダル獲得競争が国家を巻き込んでいることが最たるものなのだろう。
しかし、メダル獲得競争もあまり興味を惹かなくなってきている。そういうことよりも、５００メートルスピードスケートの日本の金メダリストのよろいのない振る舞いが好感をもたれる。
それを組織委員会もパクってしまうのだが、組織員会のどうにかしてオリンピックを継続させたい意志が企みに見えてよろいが厚く見える。
組織員会は、オリンピックの効用を言葉で説得するのだが、そういうことではない。
オリンピック組織委員会が言葉を発するほど、オリンピックは皆さんが幸せだったらオリンピックも幸せですから離れてしまう。
オリンピックはやはり大型イベントなのだ。私はおもしろいからいいと思うのだが、大型イベントならば、おもしろくなくなったら廃れてしまう。ホントはそういうことではないのだが、もう取り返すことは難しいだろう。
こうなってくると、金持ちの国でしかもリーダーが目立ちたがり屋の国でしか開催できない。
残念だが、オリンピックは平和の祭典から遠くなっている。
世界の愛が大きくなることが望ましいのだが、私はそう思っているのだが、私などの影響力のない人が焦っても意味がない。私は私で、ホンの小さな影

響力であっても、裏切らないことが大事である。世界の愛が大きくなることを裏切らないことだ。
オリンピックなどは、きわめて大きな影響力があるのだが、今回の冬季オリンピックを見てみても、オリンピックが世界の愛が大きくなることに貢献することはゼロだろう。
どちらかというと、メダル争いに拍車をかけて、競争のエクスタシーが大きくなって、ドーピング問題などを引き起こして、世界の愛を大きくするどころではなくて、世界のよろいを大きくすることに貢献してしまうかもしれない。
ロシアのドーピング問題を抱えているのだが、愛が大きくなるよりよろいが大きくなってしまう。
平和の祭典を謳っているオリンピックがこうでは、あまり期待できない。
オリンピックの組織委員会の人たちも、世界の愛が大きくなることなど考えていないだろう。
世界の愛が大きくなることは誰とかどこに託せばいいのだろう。
愛が大きくなることは大げさに聞こえるのだが、ただ、あなたが幸せだったら私が幸せだと言えることだ。
現実には、日本の政治家でも、こんなフツウの言葉を聞いたことがない。
政治家は、日本のみんなが幸せになれば政治家が幸せだと言える人しかやってはいけないと私は思うのだが、現実には、私の知る限り、そんな政治家は１人もいないようだ。私の知る限り。
残念だが、日本は韓国中国と同じように競争社会だから、愛はおいていかれる。
愛がおいていかれるとあかちゃんが生まれないから、数十年後には東ヨーロッパは、沈んでしまう。
そんなことはわかっているのだが、毎日の競争に集中してしまう。
競争のエクスタシーはよろいだから愛が大きくなることはない。

〇それでも愛を大きくしないといけない

そうまでしてなんで愛を大きくしないといけないのか。

愛は弱々しい。
愛では飯は食えない。
会社では、競争覇権の思考が１００％である。
会社で愛がどうのこうのと言い始めると、次の人事異動の候補になってしまう。
女性などは、競争覇権よりも愛を選択する人が多いのだが、上司に、だからオンナはダメだと言われたりする。
なのに、愛を大きくしないといけないのか。
会社で愛のことに触れると、弱々しい人と勘違いされてしまう。
会社が生き残ることは少し別にして、個人では、ブッダやキリストやムハンマドを人の行き着く先の姿とする人が多い。
断然多くの人々に支持されている。
こういう個人の支持と世界の会社の姿がまるで異なっているのだ。
日本だけではなくて世界の会社のコンセプトは、戦国時代の権力者の思考そのものなのだ。
世界の人は、会社では、権力者に従って競争覇権的に働いていて、自宅に帰ると、ブッダかキリストかムハンマドを支持する愛の大きな生活をしているのだ。
２０１８年の世界の社会では、会社に勤めて暮らしている人が大多数を占めている。
会社に従属する競争覇権的会社の生活と、帰宅しての愛の大きな生活の矛盾はどこかで亀裂が大きくなっていくのだろう。
当然だが、会社の変革がこれから続々と起こってくる。
世界的に会社は変革をせざるを得ない。
会社は競争覇権的な風土から愛の風土に向かうことになる。
会社がいくら頑張っても、ブッダやキリストやムハンマドには敵わない。
しかし、これには時間がかかる。
会社は、経済学や経営学という競争覇権システムを根にしている。それも少しは崩さないといけないのだ。
これは結構難しい。
経営学などは、純粋に、利益最大にするための経営形態やその動きを研究し

ている。そしてそれはもう固定観念になっている。
決して、働く人の愛あるシステムなど皆無である。
人の報酬は賃金である。同じ並びでコピー機のリース料などがあって、同じなのだ。
ちょっと異なるのは、経営者の賃金を報酬として別にしてあるしボーナスは利益から支払うことになっている。
つまり、経営者が人間で、経営者以外の社員は、機械と同じなのだ。経営学の概念の話しをしている。
これを書いても、２０１８年では違和感がある。
次第に、会社でも愛が大きくなってこないとおかしい風習ができてきているのかもしれない。
現在国会でモメている働き方改革の話しだが、日本のみんなに評判が良くない。
残業代をケチるために画策している日本の指導者たちという印象なのだろうが、愛がないな〜と言葉ではなくてこころで感じているのだ。
もういいかげんに気がつかないといけない。
世界はよろいの世界だから、２０１８年平昌での金メダリストというのもよろい好きのチャンピオンだったらよろいになる。
毎日毎日新しいよろいを世界の社会はつくることに奔走している。
よろいを作ることに携わると、それだけでもまたよろいになるのだ。
一方で、ブッダもキリストもムハンマドも、よろいが少なく、みんなが幸せだったらわたしが幸せだを貫いた。質素だった。その後のそれぞれの信奉者に持ち上げられてカタチが大きくなってしまったのは、天の上から残念に思っているだろう。
世界の大多数の人は、ブッダとキリストとムハンマドを見ているのであって、豪勢な建物を見ているわけではない。
世界の人は、ブッダもキリストもムハンマドをよく知っていて、よろいのない生き方を信じている。
世界では、ここが唯一救いである。
オーバーかもしれないが、人間が生き残れるかどうかにもかかっている。

『あなたが幸せだったらわたしが幸せ』

２０１８年

げんじあきら

『まゆ』を読んでいただきたい
『愛ってなんだ』を読んでいただきたい
『二極目の生活者』を読んでいただきたい
『こころの色』を読んでいただきたい

あなたが幸せならばわたしが幸せ

著者　　　　げんじあきら